

第3次にいはま環境プラン(案)

(第3次新居浜市環境基本計画及び環境保全行動計画)

令和6(2024)年3月予定

はじめに

環境問題は、地球温暖化の影響による気温上昇や異常気象、大気・水・土壌汚染、廃棄物、生物多様性の保全等、身近なものから地球規模に至るものまで、多様な分野で顕在化しています。

現在、世界においては平成27（2015）年に持続可能な開発目標（SDGs：エス・ディー・ジーズ）を掲げる「持続可能な開発のための2030アジェンダ」や気候変動に関する国際的枠組みである「パリ協定」が採択されるなど、世界を巻き込む国際的合意がなされ、環境を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

また、国内においては、令和2（2020）年10月に菅前首相が所信表明演説において、令和32（2050）年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする脱炭素社会の実現を目指すことを表明し、地球温暖化対策の拡充に向けた動きが加速しています。

さらに本市においても、令和3（2021）年6月に、令和32（2050）年までに全市一丸となって「ゼロカーボンシティ（温室効果ガス排出実質ゼロ）」を目指すことを表明するとともに、令和4（2022）年6月には気候非常事態を宣言したところです。

このように多様化する環境問題や環境を取り巻く社会情勢の変化に対応していくために、本市の環境に関する現況と課題を見つめ直し、将来を見据えた環境の保全及び創造に関する施策の指針として、「第3次にはま環境プラン（第3次新居浜市環境基本計画及び環境保全行動計画）」を策定します。

令和6（2024）年3月予定 新居浜市長



目次

はじめに

第1章 計画の基本的事項

- 1 計画策定の目的 4
- 2 計画の位置付け 5
- 3 計画の期間 5

第2章 新居浜市の取組みと成果

- 1 本市の現況 7
- 2 第2次にはま環境プランの総括 12

第3章 目指す環境像と施策

- 1 目指す環境像 26
- 2 未来へつなぐ持続可能なまちを目指して 27
- 3 対象範囲と体系 29
- 4 持続可能な新居浜市を目指したまちづくり施策 30
 - (プロジェクト1) 自然と文化を大切に安心して暮らせるまち
 - (プロジェクト2) 資源が循環し魅力的な都市空間を持つまち
 - (プロジェクト3) 産業の発展と地球環境の保全を両立するまち
 - (プロジェクト4) 環境学習・環境人材の育成に取り組むまち
- 5 ゼロカーボンシティを目指して(新しい施策) 47

第4章 推進体制と進行管理

- 1 推進体制 52
- 2 進行管理 53

第1章 計画の基本的事項

1 計画策定の目的

本市は、平成16年3月に「新居浜市環境基本計画」を策定し、同26年3月に「第2次新居浜市環境基本計画及び環境保全行動計画（いはいま環境プラン）」を策定しました。令和6年度から始まる「第3次いはいま環境プラン」では、本市が目指す環境像を「**歴史を未来につなぐ あかがねのまち ゼロカーボンシティにいはいま**」として、次の項目をポイントに掲げ、市民一人ひとりが環境にやさしいライフスタイルへの転換を進めながら、市民・事業者・行政の各主体の役割を明らかにするとともに、全ての主体が協働して、環境への負荷の少ない持続可能な社会を築いていくことを目指します。

第3次いはいま環境プランのポイント

- 第2次いはいま環境プランの検証・総括と課題抽出
- 「第六次新居浜市長期総合計画」など主要計画との整合性
- 気候変動、地球温暖化など環境を取り巻く社会情勢の変化
- 脱炭素社会実現を目指す方針へシフトした国の動向
- SDGs 未来都市の実現に向けた視点
- 市民目線で分かりやすく、実現性・実効性を重視した計画の策定
- 市域全体で取り組む新しい施策の紹介

コラム① SDGs

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals `SDGs）

持続可能な開発目標（SDGs）は、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030 アジェンダ」に掲げられた平成28年から令和12（2030）年までの国際目標で、17の目標とそれらに附随する169のターゲットから構成されており、環境・社会・経済の3つの側面を統合的に解決する考え方が強調されています。

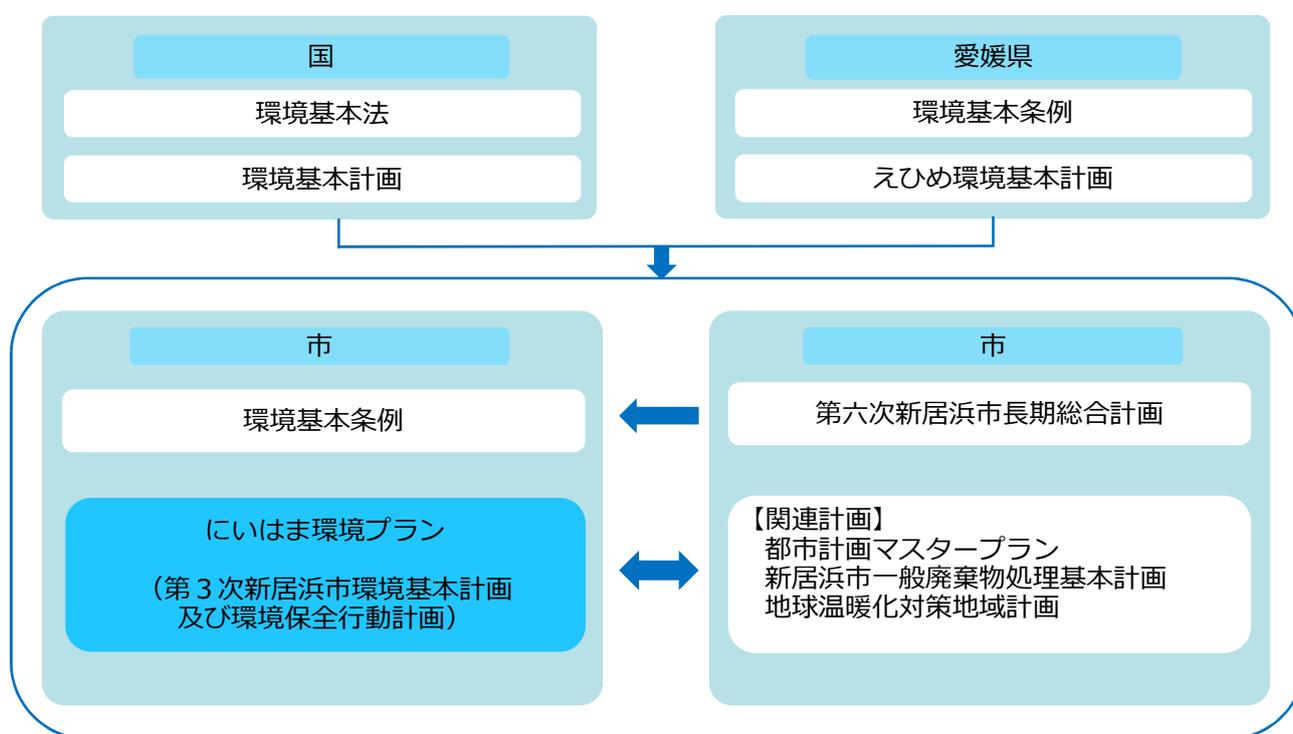
出典：国際連合広報センター



2 計画の位置付け

「環境基本計画」は、「新居浜市環境基本条例」の規定に基づき策定するもので、目指すべき環境の将来像を設定するとともに、長期的な目標や施策などを定めています。また、「環境保全行動計画」は、「環境基本計画」で定めた事項を展開するため、市民・事業者がそれぞれの事業活動において環境保全活動を推進する、具体的な取組を明らかにするもので、二つの計画を合わせたものが「いはいま環境プラン」です。

本計画は、本市の最上位計画である「第六次新居浜市長期総合計画」を環境面から補完する計画として位置づけています。また、国や県の環境に関連する法律や計画に配慮し、本市の環境に関連する各計画との整合を図ることとしています。



3 計画の期間

第1次、第2次にいはいま環境プランの計画期間は10年間としていましたが、第3次にいはいま環境プランは、2021年度に国が「地球温暖化対策の推進に関する法律（以下「地球温暖化対策推進法という。）」に基づき作成した「地球温暖化対策計画」の中で、2030年度の温室効果ガスの削減目標を、2013年度比46%に改定し各施策を推進することとしたため、国のタイムスケジュールに合わせ、2024（令和6）年度から2030（令和12）年度までの7年間とします。



コラム② パリ協定

パリ協定は、2015年に国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）が開催されたフランス・パリにおいて、平成27年に採択された温室効果ガス削減のための新たな国際的枠組みです。同協定では、温室効果ガス排出削減の長期目標として、産業革命前からの世界の平均気温の上昇を2℃より下方に抑える（2℃目標）とともに1.5℃に抑える努力を継続すること、そのために今世紀後半に人為的な温室効果ガス排出量を、排出量と吸収量を均衡させることにより実質ゼロにする、すなわちカーボンニュートラルを達成することが掲げられています。

また、令和3年にイギリス・グラスゴーで開催された国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）では、パリ協定の1.5℃努力目標達成に向け、今世紀半ばのカーボンニュートラルの達成及びその経過点である令和12年（2030年）に向けて野心的な気候変動対策に取り組んでいくグラスゴー気候合意が採択されました。

コラム③ ゼロカーボンシティ

「地球温暖化対策推進法」では、都道府県及び市町村は、その区域の自然的社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出の削減等のための総合的かつ計画的な施策を策定し、実施するように努めるものとされています。

環境省は、「2050年にCO₂（二酸化炭素）を実質ゼロにすることを目指す旨を 首長自らが又は地方自治体として公表された地方自治体」をゼロカーボンシティとしています。

コラム④ 地球温暖化対策計画

「地球温暖化対策推進法」に基づく政府の総合計画で、2016年5月13日に閣議決定した前回の計画を2021年10月に改定しました。国は、2021年4月に、2030年度において、温室効果ガス46%削減（2013年度比）を目指すこと、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けることを表明しました。



第2章 新居浜市の取組と成果

1 本市の現況

本市は、「第六次新居浜市長期総合計画」において、「一豊かな心で幸せつむぐ一人が輝くあかがねのまち いはま」を目指すべき将来都市像に掲げ、まちづくりの目標の6として「人と自然が調和した快適に生活できるまちづくり」に取り組むため、次の施策を実施してまいります。

- ◎施策6-1 「地球環境の保全と継承」
- ◎施策6-2 「生活環境の保全と調和」
- ◎施策6-3 「循環型社会の実現」
- ◎施策6-4 「上下水道事業の推進」



本市は、平成26年3月に「第2次いはま環境プラン」を策定し、各施策に取り組んでまいりました。直近5年間の状況は次のとおりです。

(1) 生活環境

ア 大気 大気汚染に係る環境基準の達成状況

項目・年度 測定局	二酸化硫黄					一酸化炭素					浮遊粒子状物質					二酸化窒素					光化学オキシダント					PM2.5				
	H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4	H30	R1	R2	R3	R4
多喜浜	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○															
金子	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○
新居浜工業	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○															
中村	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○
高津	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×					
泉川																○	○	○	○	○	×	×	×	×	×					

イ 水質（海域） 新居浜市近海の環境基準（化学的酸素要求量「COD」）の達成状況

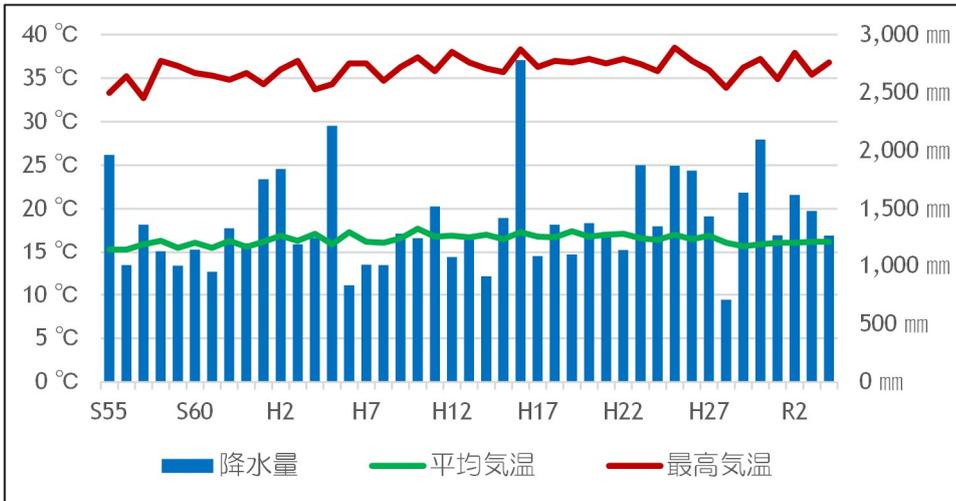
類型指定水域名	類型指定	環境基準	H30	R1	R2	R3	R4
新居浜海域（丙）	A	6	×	×	×	×	×
沢津漁港	B	1	○	○	○	○	○
新居浜海域（乙）	B	3	○	○	○	×	○
新居浜港航路泊地	C	1	○	○	○	○	○
新居浜海域（甲）	C	1	○	○	○	○	○

ア・イ出典：愛媛県環境白書（イは環境基準による類型指定あり）（○：適合、×：不適合）

大気5項目では環境基準を達成、光化学オキシダントは、未達成の状況が継続。水質は、新居浜海域（丙）で生活環境の保全に関する基準が未達成となっています。

(2) 自然環境

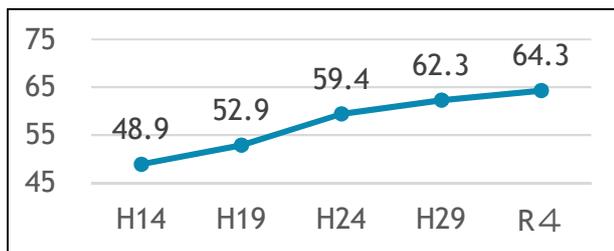
新居浜市における気温及び降水量の経年変化（出典：気象庁データ）



本市においても最高気温が35℃以上の猛暑日をほぼ毎年記録し、高温化が進んでいます。

(3) 都市環境

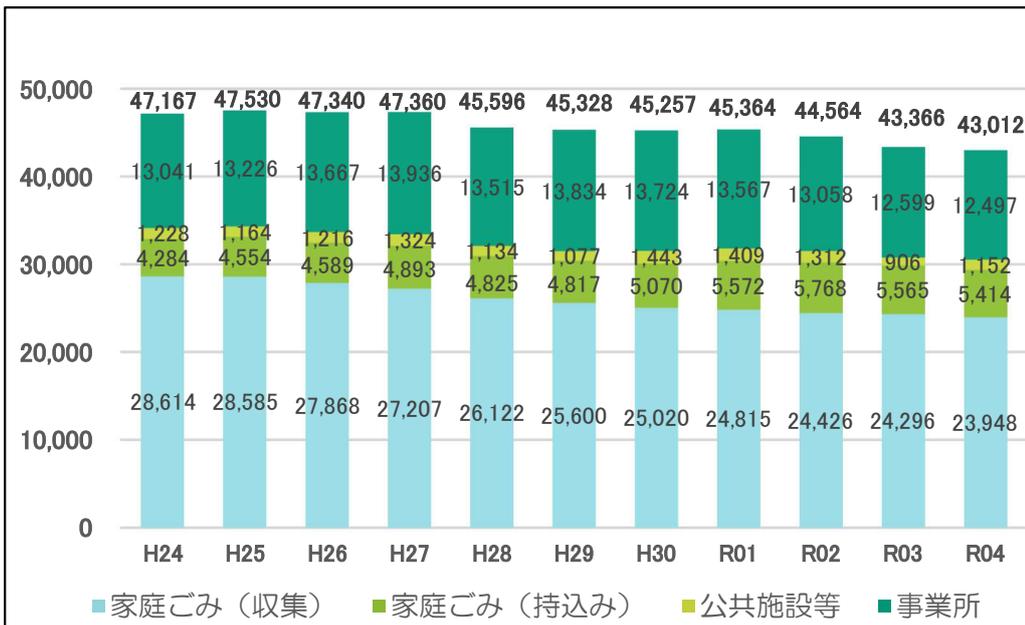
公共下水道普及率（単位％）（出典：新居浜市統計書）



下水道事業は、「新居浜市公共下水道事業計画」に基づき、汚水の面整備、雨水施設の設備を推進しています。

(4) 資源循環

ア 市のごみ量の推移（単位：t）（出典：令和4年度年次報告書）

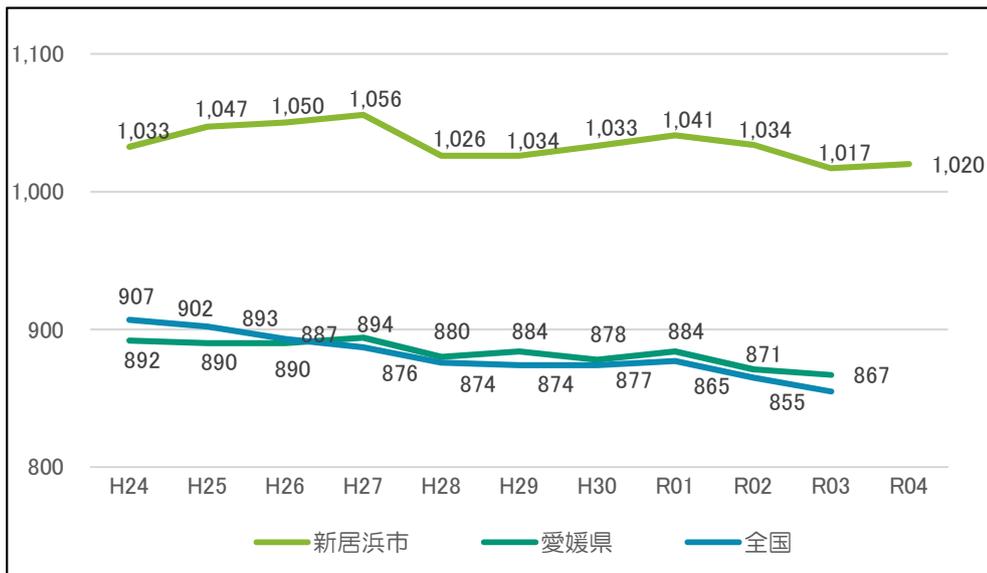


（集団回収を含まない）

ごみ総量は、家庭ごみが収集と直接持ち込み分とあわせて約7割、その他ごみが3割、

近年、家庭系持ち込みごみが増加傾向です。

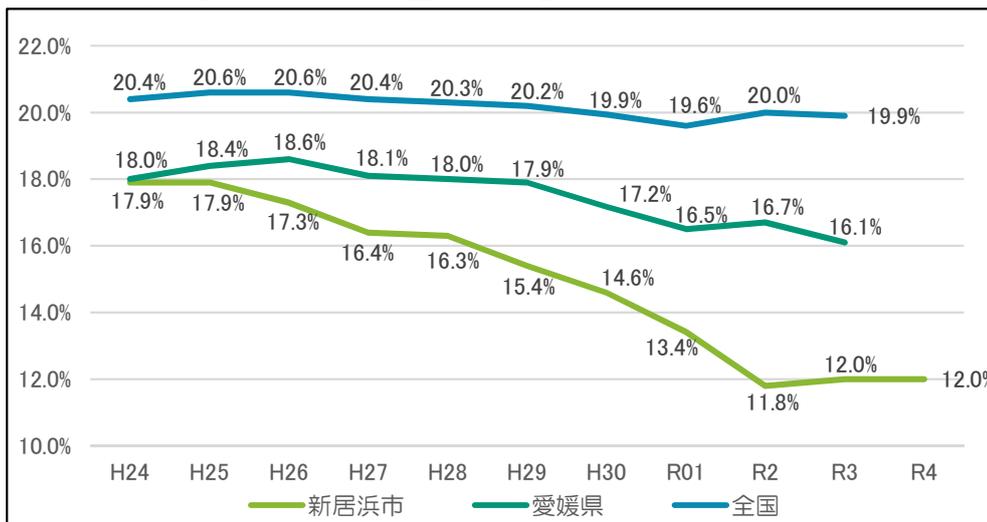
イ 市民1人1日当たりごみ量（単位：g/人・日）（出典：令和4年度年次報告書）



（集団回収を含まない）

近年は減少傾向ですが、国、県の平均と比較して約150g多く、市民1人が毎日、お茶碗約1杯分のご飯の量に近いごみを多く排出している計算です。

ウ リサイクル率の推移（出典：令和4年次報告書）



平成24年度以降、リサイクル率は下降傾向にあり、全国平均や県平均と比べると低い率です。

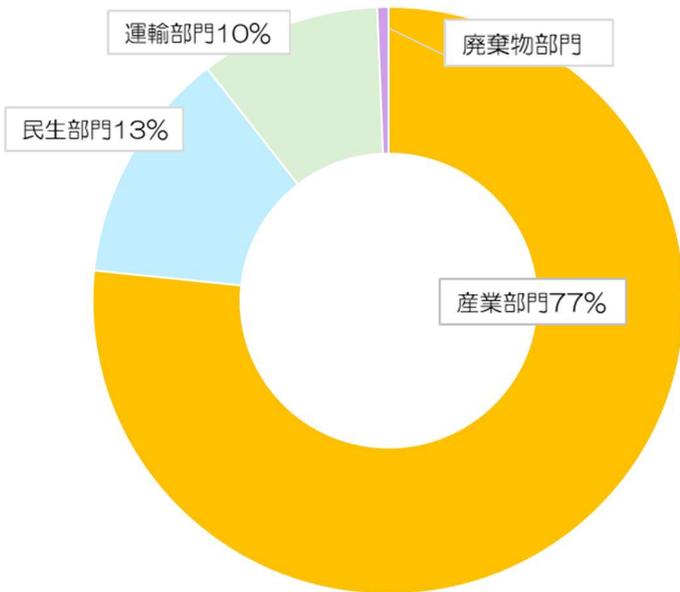
（5）地球温暖化

本市は、令和3年3月に「新居浜市地球温暖化対策地域計画（第2次区域施策編）」を策定し、新居浜市域から排出される温室効果ガス（二酸化炭素）を、2013（平成25）年度を基準として、2030（令和12）年度までに35.8%削減する目標を設定していましたが、国の削減目標の改定に伴い、2023（令和6）年3月に削減目標を46%に改定し地球温暖化対策に取り組むこととしました。

これまで、国のエネルギー消費統計及び本市や県域の統計データ等の値を用いて温室効果ガス排出量推計を算出していましたが、本プランからは、環境省「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル（算定手法編）」の標準的手法に基づき、排出量を推計することとしました。なお、一般廃棄物のCO2排出量は、環境省「一般廃棄物実態調査結果」の焼却処理量から推計します。

産業部門	民生部門	運輸部門	廃棄物部門	計
2,132千 t-CO2	358千 t-CO2	275千 t-CO2	17千 t-CO2	2,783千 t-CO2

2020年度 温室効果ガス排出量内訳



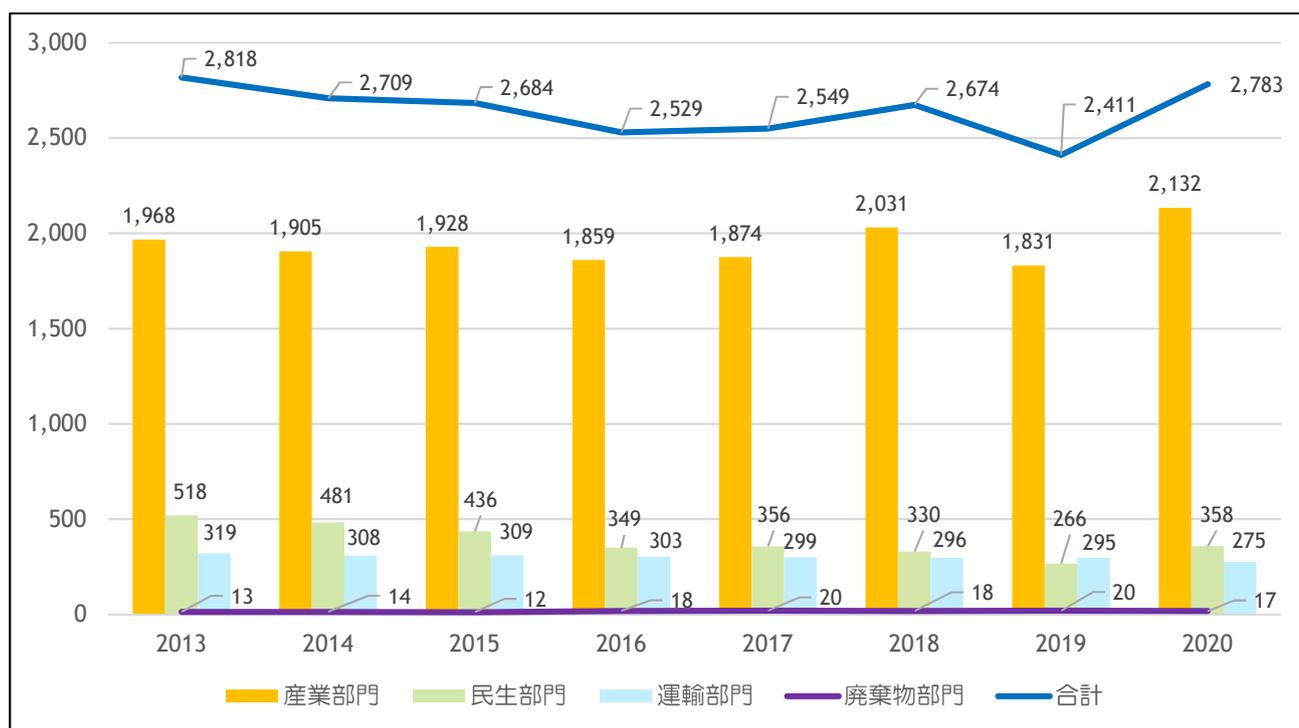
2020年度の排出構成では、産業部門の割合が最も多く、次いで民生部門、運輸部門、廃棄物部門となっています。全国や愛媛県と比べると産業部門の割合が多いのが本市の特徴です。



イ 2020年度 新居浜市域の温室効果ガス排出量の内訳と推移（単位：千 t-CO2）

部門		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2013 年度比	
産業部門	製造業	1,950	1,884	1,909	1,841	1,857	2,014	1,816	2,118	8.62%	
	建設・鉱業	12	12	11	10	10	10	8	10	-19.27%	
	農林水産業	5	10	8	8	7	6	6	4	-20.43%	
	小計	1,968	1,905	1,928	1,859	1,874	2,031	1,831	2,132	8.37%	
民生部門	家庭	267	245	213	180	192	166	134	191	-28.34%	
	業務	252	237	222	169	164	164	132	167	-33.66%	
	小計	518	481	436	349	356	330	266	358	-30.92%	
運輸部門	自動車	乗用	126	120	120	119	118	116	113	100	-20.72%
		貨物	97	96	96	94	93	92	92	88	-9.56%
	船舶	86	82	85	82	80	80	83	80	-6.84%	
	鉄道	10	9	9	9	8	8	7	7	-24.11%	
	小計	319	308	309	303	299	296	295	275	-13.66%	
廃棄物部門	一般廃棄物	13	14	12	18	20	18	20	17	30.37%	
	小計	13	14	12	18	20	18	20	17	30.37%	
合計		2,818	2,709	2,684	2,529	2,549	2,674	2,411	2,783	-1.25%	

ウ 温室効果ガス排出量（単位：千 t-CO₂）



東日本大震災の影響により電気の排出係数が悪化しましたが、徐々に改善しているため、エネルギー起源CO₂が大半を占める産業部門は増加傾向で、そのほかの民生部門、運輸部門は、排出量が減少していますが、廃棄物部門については、基準年度と比較して増加傾向にあります。

コラム⑤ 電気の排出係数

電気の排出係数とは、「電力会社が電力を作り出す際に、どれだけのCO₂を排出したかを示す数値」で、発電のために使用される、石油、石炭、天然ガスなどの燃料の種類や地域の電力需要により違いが発生します。



2 第2次にはま環境プランの総括

(1) 主な取組み内容と成果指標の達成状況

ア 【環境目標1】暮らしを大切にすまち（生活環境の保全）

○大気の保全

愛媛県と本市で市内6箇所に大気汚染測定局を設置し、24時間体制で大気汚染を常時監視したほか、令和元年5月の光化学スモッグ注意報発令時には、緊急連絡体制による周知を行いました。（環境衛生課）



○水質の保全

公衆衛生の向上と公共用水域の水質保全を図るため、公共下水道の整備や合併処理浄化槽設置に対する補助、公共下水道に接続している事業場などの排水調査を行いました。また、近年の社会情勢の変化や国の方針転換を受け、令和4年度に公共下水道全体計画区域を縮小し、「下水道整備区域」と「合併処理浄化槽による整備促進区域」を明確化したことにより、公共下水道と合併処理浄化槽の両処理方法による更なる効果効率的な施設整備に取り組んでいます。（下水道課・環境衛生課・廃棄物対策課）

○食の安全

食育の一環として食の安全関連の広報や、学校給食の地元産品の使用率向上を図るため、JAえひめ未来と青果業者の連携強化の協議や、地産地消の啓発を行いました。（消費生活センター・学校給食課・農林水産課・保健センター）



○成果指標の達成状況

成果指標	現況値		目標値	達成度	
	平成29年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	基準年度比	R5目標値比
大気監視率	100%	100%	100%	➡	➡
公共下水道人口普及率	62.3%	64.64%	73.0%	➡	➡
合併処理浄化槽の補助基数	2,047基	2,171基	2,494基	➡	➡
地下水の環境基準達成率	100%	100%	100%	➡	➡
海域の環境基準達成率(COD)	100%	80%	100%	➡	➡
ダイオキシン類の環境基準 (大気・水質・土壌)	達成	達成	達成	➡	➡
学校給食における野菜、 米の新居浜産使用率	野菜 19% 米 45%	野菜 17% 米 32%	野菜 40% 米 70%	➡	➡

イ 【環境目標2】自然を大切にすまち（自然環境の保全）

○森林・農地・里地・里山の保全

生物多様性の保全や土砂災害の防止等、森林の持つ多面的機能が発揮できるよう間伐などの森林整備事業への支援や木質バイオマス間伐材の安定供給のための助成を行いました。

優良農地の保全のため、「農地法」等に基づき無秩序な転用の抑制と農地の利用促進を図ったほか、市内3カ所の遊休農地で景観形成作物の花（ポピー、コスモスなど）の作付けにより、活用を図っています。（農林水産課・農業委員会事務局）



○海域・海岸・河川・水辺の保全整備

海洋プラスチックごみ対策の取組として市民・団体と協働で垣生海岸に漂着したマイクロプラスチックごみの清掃を実施しました。河川の除草作業やアダプトプログラムによる清掃美化活動、不法投棄ごみの撤去を行いました。（カーボンニュートラル推進室・都市計画課・地域コミュニティ課・廃棄物対策課）



○生き物の生息・生育環境の保全

特定外来生物セアカゴケグモのモニタリング定期調査の結果による繁殖場所や、カミツキガメなどの注意喚起と情報提供を行いました。（環境衛生課）

文化財として指定されている天然記念物について、現地確認や所有者への助言を行いました。（文化振興課）



○野生動植物の適正な管理と保護

環境関連団体と連携した自然観察体験会を通じた啓発や、有害鳥獣による農作物被害防止のため、捕獲や防護柵設置の支援を行いました。（カーボンニュートラル推進室・農林水産課）

○成果指標の達成状況

成果指標	現況値		目標値	達成度	
	平成29年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	基準年度比	R5目標値比
耕作放棄地面積	73.0ha	85ha	71.5ha	↓	↓
マリンパーク新居浜 年間利用者数	145,700人	107,044人	143,000人	↓	↓
ヒアリ等の危険な 外来生物の防除	達成	未達成	達成	↓	↓

ウ 【環境目標3】まち並みを大切にすまち（魅力ある都市空間の形成）

○公園・緑地の整備と都市緑化の推進

公園等の整備は、「公園施設長寿命化計画」に基づき、黒島海浜公園外17公園等の整備、補修のほか、滝の宮公園整備事業等の植栽工事を実施しました。市民活動団体や地元自治会と協働し、駅前シンボルロード沿い等で花植えなどの緑化に取り組みました。また、令和4年度に「新居浜市総合運動公園基本計画」を策定しました。（都市計画課・スポーツ振興課）



○安全、快適な道路整備とユニバーサルデザインの推進



自転車利用者の走行空間整備として、原地庄内線外1路線に、自転車専用通行帯や自転車のピクトグラムなどを設置しました。公共施設の改修においては、施設内のユニバーサルデザインの導入に努めたほか、令和3年度は上部東西線において新設道路整備及びバリアフリー化の整備を実施しました。また、路線バスのバリアフリー対応車導入に対する補助を実施しました。（道路課・建築住宅課・地域交通課）

○文化財の保存と活用

あかがねミュージアム（総合文化施設・美術館）では、地域ゆかりの美術品、太鼓台や民俗文化、産業の紹介のほか、図書館や市史編さん室では、本市や本市に関連する近隣市町の郷土史料の収集等を継続しています。また、国指定重要文化財「旧広瀬家住宅」の保存活用の取組のほか、国登録有形文化財「旧端出場水力発電所」、「住友山田社宅」の整備と公開活用を推進しています。（文化振興課・図書館・市史編さん室・別子銅山文化遺産課）



○成果指標の達成状況

成果指標	現況値		目標値	達成度	
	平成29年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	基準年度比	R5目標値比
都市公園面積 (市民一人当たり)	11.51 ㎡ (H30)	12 ㎡	13.16 ㎡	➔	➡
バリアフリー歩道整備率	65%	81%	83% (~R4)	➔	➡
トイレ改修整備完了公民館数	16 館	18 館	18 館	➔	➔
低床式車両 (バリアフリー対応)の導入率	34%	38%	38%	➔	➔
自転車走行空間整備率	16%	29%	30% (~R4)	➔	➡
郷土資料の保管冊数	11,165 冊	12,529 冊	12,100 冊	➔	➔

エ 【環境目標4】資源を大切にすまち（循環型社会の形成）

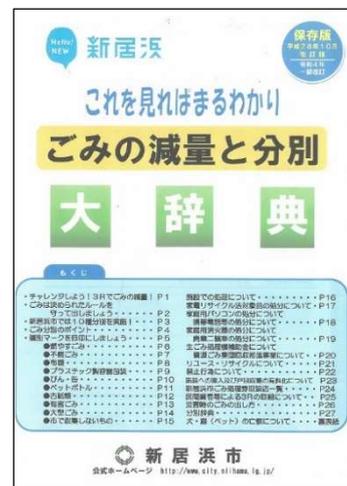
○水資源の確保、安全な水道水の安定供給、水循環の推進

平成31年度「新居浜市水道事業経営戦略」、令和2年度「新居浜市新水道ビジョン」を策定し、令和3年には上下水道事業運営審議会を設置し経営健全化及び基盤強化を審議しています。（水道課・企画経営課）

○3Rの推進

3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組として、生ごみたい肥化講習会、不用品伝言板制度、衣類拠点回収や資源ごみ集団回収の助成などを行ったほか、マイバッグデザインコンテストやマイバッグ持参推進キャンペーンを実施し、レジ袋廃棄量の削減を図りました。

食品ロス、3010運動の啓発のほか、学校での食育推進等に取り組んでいます。（廃棄物対策課・カーボンニュートラル推進室・学校給食課）



○廃棄物の適正処理

清掃センターごみ焼却施設において、平成27年度から基幹的設備改良工事を実施し、令和14年度まで15年間の延命化を図りました。

また、廃棄物の搬入量から算出した埋め立て容量を基に毎月、残余容量の確認を行うとともに、年1回の埋め立て状況の実測により、適正な残余容量の把握に努めました。リサイクル推進施設にペットボトル選別圧縮機械設備を設置しました。（廃棄物対策課）

○不法投棄の防止と環境美化の推進

不法投棄重点地区のパトロールと投棄物の回収、不法投棄多発場所10か所に不法投棄監視カメラを設置し不法投棄の防止を図りました。（廃棄物対策課）

環境美化推進運動作品コンクール及び入賞作品展を実施したほか、外国人労働者の増加に対応し、ごみステーション等に外国語のポイ捨て禁止看板の設置を行いました。

（廃棄物対策課・地域コミュニティ課）

○成果指標の達成状況

成果指標	現況値		目標値	達成度	
	平成29年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	基準年度比	R5目標値比
上水道有収率	93.2%	92.5%	94%	→	→
ごみ排出量（一人一日当たり）	1,026g	1,020g	844g	→	↘
リサイクル率	15.4%	12.0%	29.5%	↘	↘
市民一斉清掃参加者	17,000人	中止	20,000人	-	-
公共施設愛護事業の登録件数	100件	109件	112件	↗	→

オ 【環境目標5】 エネルギーを有効活用し、地球を大切にすまち（地球環境の保全）

○家庭での省エネルギー促進とライフスタイルの転換

環境関連団体と連携し、環境家計簿モニターの普及に努めたほか、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギーハウス）、太陽光発電設備及び蓄電池の導入に対する補助を行い、家庭における省エネルギー設備機器の導入促進に努めました。

環境家計簿記帳モニター事業により、省エネ及び環境負荷の低減の取組を推進したほか、市役所ロビー展で「うちエコ診断会」を開催し、エネルギー消費量を可視化などで、120名の参加者の意識啓発を促しました。（カーボンニュートラル推進室）

○事業所での省エネルギー促進

省エネルギー等に関心のある企業のさらなる利用促進を目的として、SDGs推進企業登録制度の登録企業を対象に、国の「省エネ診断」の一部費用補助を開始しました。

また、グリーンショップ・オフィス認定制度により、環境に配慮した事業活動の普及・啓発を促進のほか、市内事業所へのエネルギー消費の「見える化」についての情報提供等を行いました。

公共施設においては、活動量調査を通して、市有施設でのエネルギー使用の把握・管理を行ったほか、消防防災合同庁舎などの新規施設については、省エネルギー型機器の導入を推進しているほか、学校施設における、LED、高効率照明への更新や地域におけるLED防犯灯の設置を支援したほか、一部の自治会館にLED照明設備の導入を支援しました。

（産業振興課・カーボンニュートラル推進室・地域コミュニティ課・学校教育課ほか）



○再生可能エネルギーの導入・活用

再生可能エネルギービジネスの支援として、企業が新規事業に取り組むための課題調査、専門家による相談会などの支援を行いました。

地域特性を活かした再生可能エネルギーの利活用促進として、木質バイオマス間伐材の安定供給整備のための助成を行いました。

公共施設への太陽光発電設備及び蓄電池等の導入（オンサイトPPA方式）、また、公園や市道に設置している照明灯にLED照明設備を導入（ESCO事業）したほか、公共施設のZEH化に向けた実証実験を開始しました。（産業振興課・カーボンニュートラル推進室・農林水産課）



○低炭素な交通対策の推進

公共交通機関の利用促進において、令和4年度には、小型の公共交通であるデマンドタクシーの運行区域を拡大したほか、自動車交通利用の抑制・転換の促進のため、市民にノーマイカー通勤デーへの参加の呼び掛けを行いました。また、環境関連団体と連携して自転車マイレージ事業を実施し、自転車利用の普及啓発に努めたほか、電動アシスト自転車購入補助を行い自転車の利用環境の向上に取り組みました。（地域交通課・カーボンニュートラル推進室）



○成果指標の達成状況

成果指標	現況値		目標値	達成度	
	平成29年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	基準年度比	R5目標値比
環境家計簿の取組世帯数	593 世帯	667 世帯	1,070 世帯	↗	↘
自転車マイレージ参加者数	243 人	476 人	345 人	↗	↗
高効率モーター型送水ポンプ 台数	10 台	11 台	14 台	↗	↘
大規模改修による 小・中学校の省エネ・環境共生化 実施校数	小学校 4 校 中学校 2 校	小学校 5 校 中学校 3 校	小学校 12 校 中学校 9 校	↗	↘
防犯灯の LED 導入か所数	9,762 か所	9,967 か所	10,150 か所	↗	→
にいはまグリーンショップオフィス 認定登録数	36 事業所	37 事業所	61 事業所	↗	↘
住宅用省エネ・新エネ設備に 対する補助戸数	184 戸	478 戸	612 戸	↗	↘
新製品開発事業補助件数	2 件	0 件	5 件	↘	↘
公共交通（バス・デマンドタクシ-） 路線・エリアの維持・確保数	13 路線・ エリア	13 路線・ エリア	13 路線・ エリア	↗	↗
公共交通（バス・デマンドタクシ-） の利用者数	39 万人	26 万人	38 万人	↘	↘

カ 【環境目標6】人を大切に、協働して取り組むまち（環境教育・学習の推進と協働）

○地域及び学校での環境学習の促進

地域教育力向上プロジェクト推進事業の中で公民館での環境学習講座などを行いました。

環境学習・SDGs達成に向けて取り組む学校づくりの推進のため、コミュニティ・スクールの強みを生かしたESD（持続可能な開発のための教育）活動による学校ビオトープや植物栽培、環境調査などに取り組みました。また、市内小学校にて、省エネルギーチェックシートの作成（キッズエコ活動）を行いました。（学校教育課・カーボンニュートラル推進室）



○環境保全活動団体・人材等の育成

地球高温化対策地域協議会で総会記念環境学習講座や、いいはま環境市民会議による環境学習講座を開催し、幅広い層への環境学習が実施できました。これらの環境活動へ参加のインセンティブとして、あかがねポイントを導入し参加者の拡大に取り組んでいます。（カーボンニュートラル推進室・廃棄物対策課）

○市役所の環境保全率先行動

公用車は低公害車への更新を促進するとともに、老朽化した車両をより環境の負荷が少ない車両に更新しました。また、ニームスに基づき、「地球温暖化対策率先行動計画」の進行管理を行い、温室効果ガスの排出量の削減に取り組み、グリーン購入の調達率を公表しました。（カーボンニュートラル推進室・管財課）



○成果指標の達成状況

成果指標	現況値		目標値	達成度	
	平成29年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	基準年度比	R5目標値比
公民館における環境学習コース数	16コース	10コース	18コース	↘	↘
環境教育・環境学習に取り組む学校数	24校	28校	28校	↗	↗
地球高温化対策地域協議会登録団体数	283団体	292団体	307団体	↗	→
公的施設における太陽光発電設置数	30件	31件	33件	↗	→
低公害自動車の保有台数	69台	77台	79台	↗	→
電動バイクの保有台数	0台	0台	6台	—	↘
市の事務事業における温室効果ガス総排出量	H25年度比 1.1%減	H25年度比 18.8%減	H25年度 比10%減	↗	↗

キ 【環境目標7】安全・安心に暮らせるまち（防災）

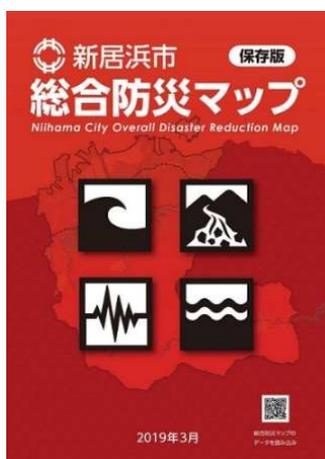
○災害時のエネルギー源と自然的土地利用の防災機能の確保

指定避難所及び指定福祉避難所に発電機を整備し、災害時の初動の電源を確保するとともに、電気自動車による電力供給が行えるよう民間事業者と協定を結びました。

危険物を取り扱う工場・事業所と行政機関の間の「IPインカム」整備により、事故発生時等の迅速な連絡体制を整えるとともに、コンビナート訓練では被災を想定した住民の避難誘導訓練を実施するなど各体制の向上が図ることができました。

森林が持つ水源涵養機能のための治山事業の実施のほか、ため池ハザードマップを作成し、防災重点農業用ため池は、県営事業及び市営事業にて改修事業に着手しました。（危機管理課・農林水産課）

○地域の防災意識の啓発と防災体制の強化



平成31年3月に、各種災害の被害想定や危険箇所、防災関連情報を掲載した「新居浜市総合防災マップ」を発行しました。市民に迅速な情報提供の手段として、防災行政無線、メールマガジンなどでの広報や出前講座、ロビー展等で防災知識・意識の啓発を行ったほか、事業者に対し事業継続計画（BCP）策定の促進を行いました。（危機管理課）

事業所などを対象とした自衛消防訓練、地域住民を対象とした防災訓練などに消防職員が立ち会い、迅速かつ的確な通報や避難、消火について指導を行いました。また、小学校区単位での防災訓練の実施、地区防災計画に基づく取組を自治会防災部などと連携して行いました。（予防課・危機管理課）



○二次災害対策の推進

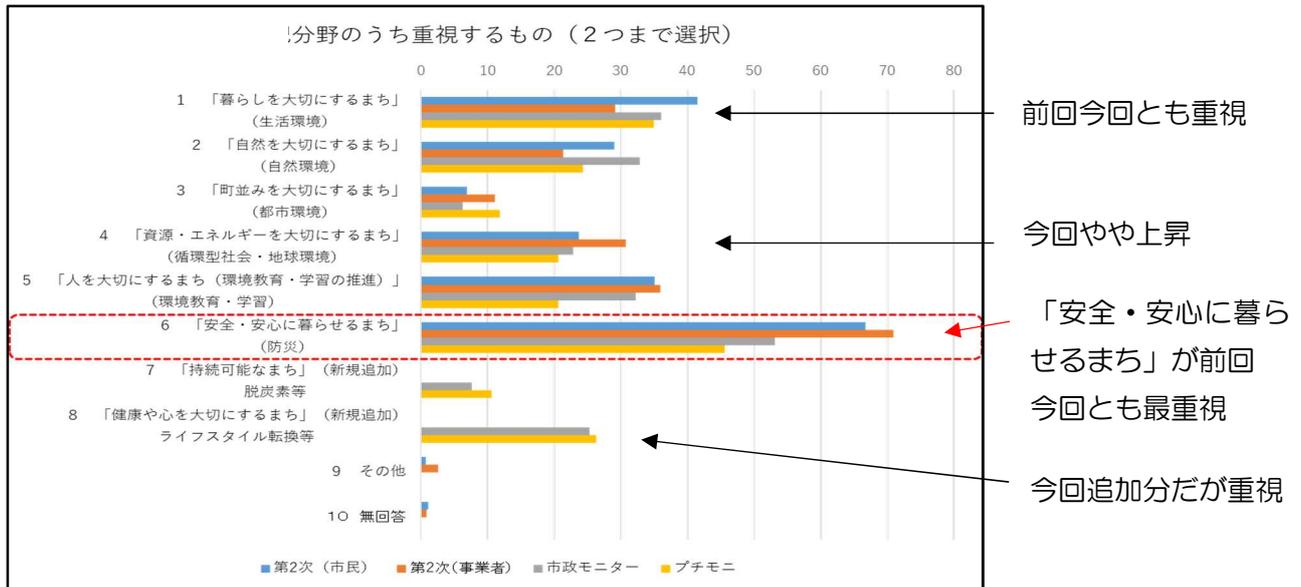
危険物取扱施設等への安全対策等の指導時や検査などの機会を活用して現地を確認し、指導することで、保安力の向上を図りました。また、危険物取扱者に対する講習時に、危険物の取扱いについて法令遵守の徹底を求め、安全対策の向上を図りました。（予防課）

○成果指標の達成状況

成果指標	現況値		目標値	達成度	
	平成29年度 (基準年度)	令和4年度	令和5年度	基準年度比	R5目標値比
指定避難場所への 発電機の配備	88 箇所	170 箇所	170 箇所	▲	▲
自主防災訓練・総合 防災訓練参加者数	4,850 人	3,192 人	5,000 人	▼	▼

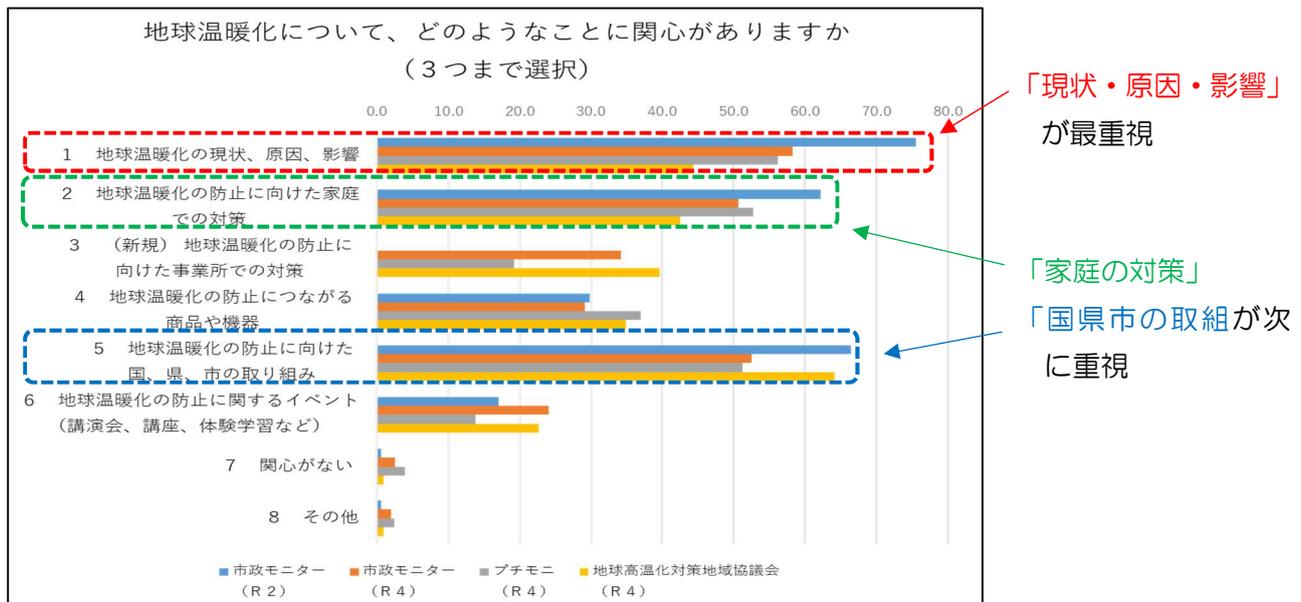
(2) 市民アンケートの結果

ア 8つの分野のうち重視するもの（2つまで選択）



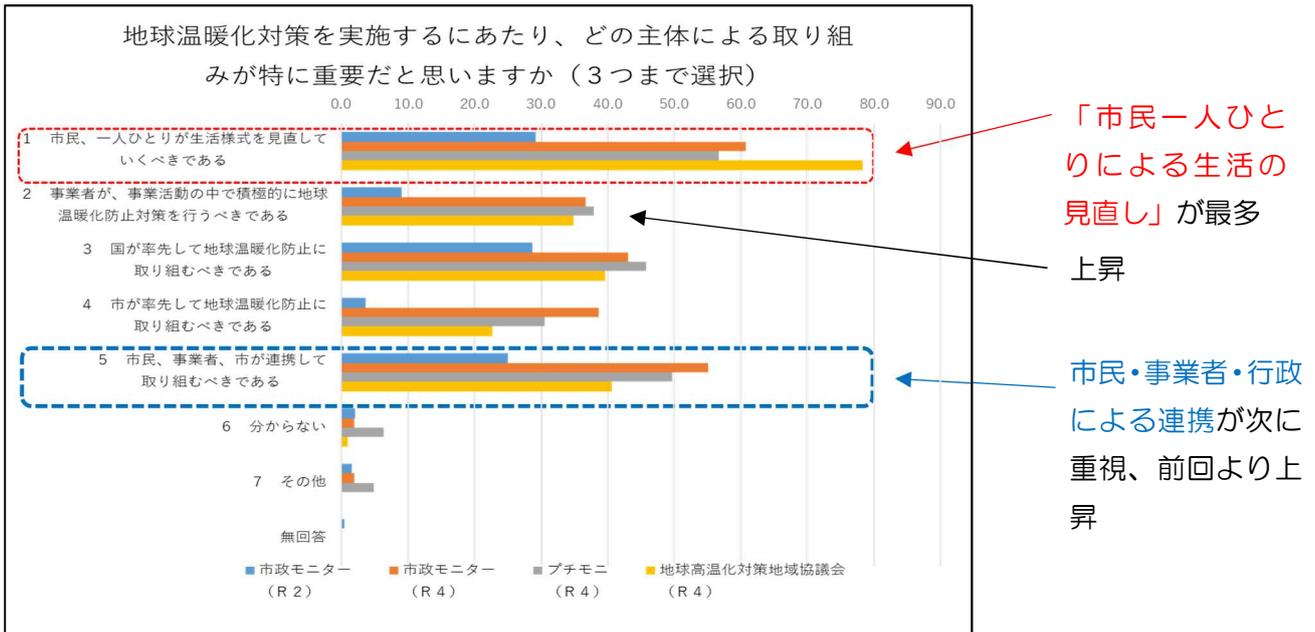
【考察】 近年規模が拡大している災害への不安から「防災」分野の関心が依然として高く、広く市民の生活に密接に関わる「生活環境」や貴重生物保護等に関わる「自然環境」が上昇、新規追加項目の「健康や心を大切にするまち」が意外と高い理由としては、ライフスタイル・消費の持続可能化や食品ロス削減のような「もったいない」に代表される日本の文化が見直されているのではないかと推測される。

イ 地球温暖化について関心があること（3つまで選択）



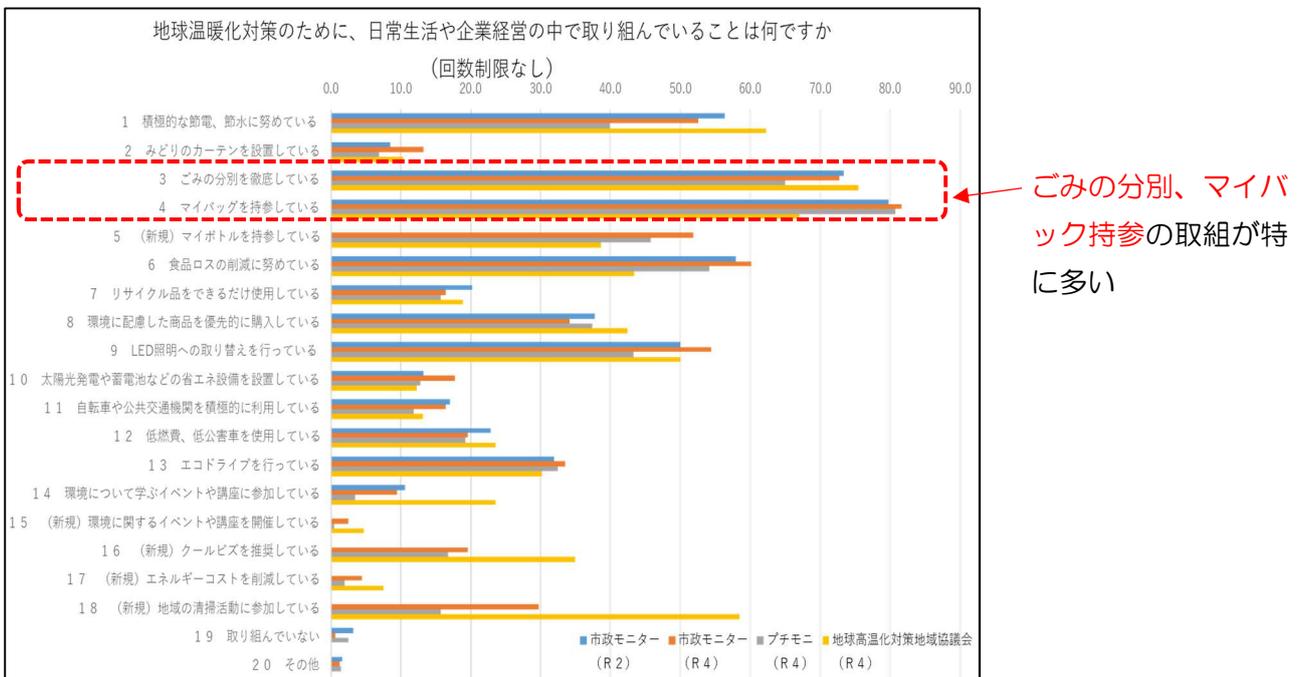
【考察】 「地球温暖化の現状、原因、影響」が最重視、次いで「国・県・市の取組」と「家庭での対策」が同程度、その次が、新規で追加した「事業者での対策」となっている。国際的にも企業による環境対策が重視されてきていることも影響していると推測。

ウ 地球温暖化対策は、どの主体による取組が特に重要だと思うか（3つまで選択）



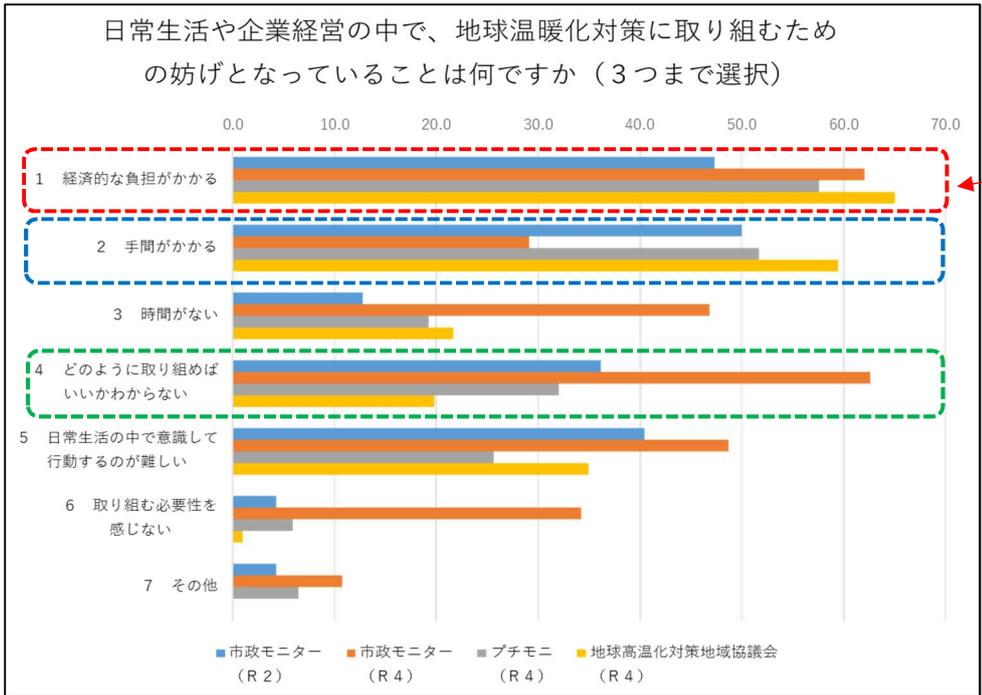
【考察】 「市民一人ひとりによる生活様式の見直し」が引き続き最多であり、次いで前回より大幅に関心が増した「市民・事業者・行政による連携」となっている。また、「事業者の積極的な対策」も関心が増していることから、工業都市である本市の事業者への期待が高まっていると推測。

エ 地球温暖化対策のために日常生活や企業経営の中で取り組んでいること（いくつでも）



【考察】 前回と傾向はほぼ同じ。新規追加の「地域の清掃活動への参加」は高温化対策地域協議会で多数意見があった。法規制やペナルティのある取組の率が高い。

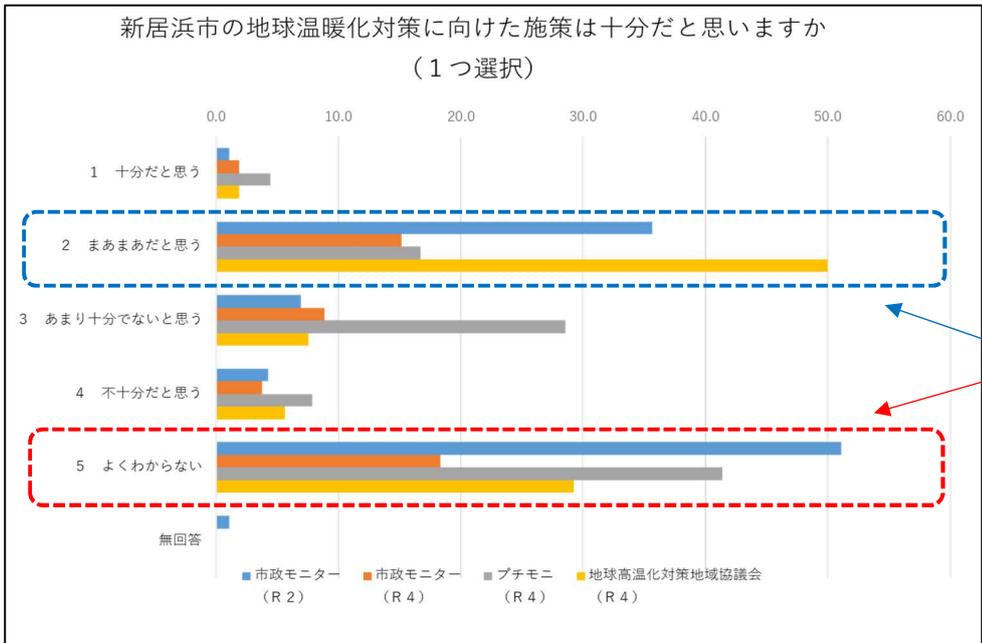
才 日常生活や企業経営の中で、地球温暖化対策の妨げとなっていること（3つまで選択）



「経済的負担」が最も多い

【考察】 前回は最多意見が「手間がかかる」、次いで「経済的負担」だったが、今回逆転している。コロナ禍による収入減などの影響等で生活に余裕がないと推測、「取り組み方が分からない」については、市等の広報の不足も一因と推測。

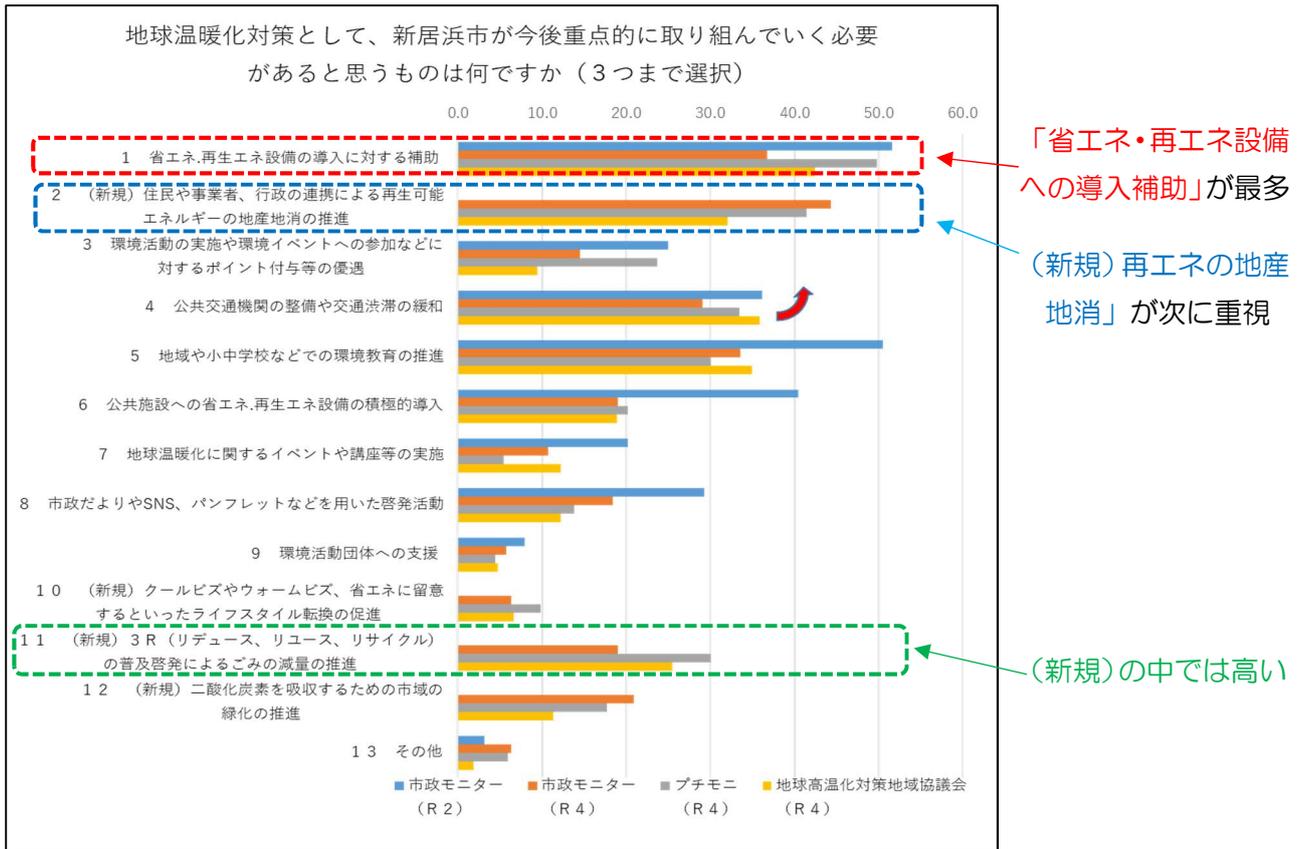
力 新居浜市の地球温暖化対策に向けた施策は十分か？



「まあまあ」「わからない」が多数

【考察】 「よく分からない」が前回今回とも最多であり、次いで「まあまあだと思う」となっている。市の対策について一定の評価はされているが、全体的にまだまだ環境政策に対する関心が低く、取組内容まで市民に伝わっていないのではないかと推測される。

キ 地球温暖化対策



【考察】「省エネ・再生エネへの導入補助」が前回今回とも最多であり、次いで新規追加事項の「主体（官民）間の連携による再生エネの地産地消」となっている。また、「公共交通機関の整備」や新規追加事項の「3Rの推進」への関心が高い傾向である。

市民アンケート内容（令和4年度実施）

1. 環境意識に関するアンケート

2. 地球温暖化に関するアンケート

(1) アンケート名

- ①市政モニターアンケート（令和4年9月実施）
- ②プチモニターアンケート（令和4年9月～10月実施）
- ③地球高温化対策地域協議会アンケート（令和4年8月実施）

(2) 過去実施アンケートとの比較

- ①第2次環境基本計画に関する市民・事業者アンケート（平成24年8月～9月）
- ②市政モニターアンケート（令和2年7月実施）

(3) 浮かび上がる課題

各施策の現況と課題

第2次にはま環境プランの成果と市民アンケートの結果などから、自然環境、生活環境、安全・安心な暮らし、地球温暖化に関わる取組のほか、環境学習の推進と市民、事業者、行政の各主体の協働の取組に関する項目について課題を整理しました。



(ア) 自然環境に関する現況

- ㊦ 大気や水質は、大きな変化は無いが、環境基準の一部が未達成
- ㊧ 危険な外来生物等の侵入による駆除、防除対策
- ㊨ アンケートの重視する分野では、防災が最も関心が高く、次に市民生活に密着する「生活環境」や自然保護等に関わる「自然環境」が上昇

課題① 市民が健康で安心して暮らすために、今ある自然環境を保全するとともに、大気、水を良好に保ち、生活環境を良好な状態に保全する施策の継続が必要です。

(イ) ごみや資源循環に関する現況

- ㊦ 市域のごみ処理量は減少傾向だが、一日1人当たりのごみ量は、全国平均や県内平均と比較して多く排出
- ㊧ 市域のリサイクル率の推移は、下降傾向だが、全国平均や県内平均と比較して低い率
- ㊨ アンケートの重視する分野では、「循環型社会」や「地球環境」の関心度が上昇

課題② 日常生活では、ごみの分別やマイバック持参の取組みの浸透がみられません。廃棄物に関してさらに市民一人ひとりがライフスタイルを見直すとともに、ごみの発生抑制や3Rの推進に向けて効果的な施策の推進、また、資源循環の施策の推進が必要です。

(ウ) 地球温暖化対策に関する現況

- ㊦ 市域の2020年度温室効果ガス排出量の排出構成では、産業部門の割合が最も多く、全体の約7割（産業部門排出量2,132千t-CO₂）
- ㊧ 気象に関しては、気温（猛暑日）の上昇や降水量（豪雨）が増加傾向

課題③ 地球温暖化の要因である温室効果ガスの排出量は、本市では産業部門の割合が最も多いことが特徴です。脱炭素を推進する事業者に対するビジネススタイルの転換への情報提供や、事業への支援などの施策が求められています。

(工) 環境学習の推進と協働の取組みに関する現況

- ㊦ 環境の課題に関する学習や市民団体等の活動は継続されているが、アンケートの結果では、家庭や社会での生涯を通じた環境学習の機会の提供が重視されている傾向
- ㊧ 取組の浸透に関して、アンケート結果では、特に地球温暖化対策の妨げとなっている要因は、「どのように取り組めばよいかわからない」の割合が高い傾向
- ㊨ 取組の各主体は、「市民・事業者・行政による連携」が重要（前回のアンケート調査より大幅に増加）

課題④ 環境問題の多くは、日常生活や事業活動等に起因しているため、市民、事業者、行政の各主体との協働、連携をさらに深めて取組みを推進する必要があります。地球温暖化対策においても、各世代やニーズに合わせた情報発信、イベント等による啓発によって、一人ひとりの課題としてとらえて行動へと促す取組が必要と考えられます。

(4) 総括

第2次にはいま環境プランの成果指標については、令和5年度の目標値に対して、達成項目とほぼ達成の項目、進展はやや低い計画当初から改善されている項目とを合わせると約7割となった一方で、目標値に届かない項目もありましたが、計画の全体では、おおむね各取組みにおいて推進が図られていました。

第3次にはいま環境プランでは、第2次までの検証をもとに、上位計画や各個別計画との整合を図るとともに、脱炭素に向けた社会情勢の動向を考慮して関連性や実効性のある成果指標とするため、取組み項目の見直しを行い、環境保全のために継続して取り組む項目とともに新たな成果指標も設定し、計画を推進する必要があります。

世界規模の課題である地球温暖化対策については、各種媒体を通じて、豪雨や洪水等の自然災害、猛暑や熱中症等の増加と健康への影響、また、農作物の品質低下や天候被害といった生活に直接影響が及んでいる情報が日常的に伝えられており、市民アンケートの結果でも地球温暖化の現状や影響など危機意識が高まっている事が分かりました。

この状況を改善するには、行政、事業者、市民が現状を認識し、地球温暖化対策は一人が頑張ってもどうにもならないという考え方から、一人ひとりの行動の積み重ねが大きな力につながるという考え方への転換を促していく必要があります。その意識の醸成は、本市においても重要な課題であると認識する必要があることから、脱炭素社会の実現に向けた具体的な取組み内容や新たな指標を広く示すことにより、全市一体となって各取組を積極的に推進する必要があります。



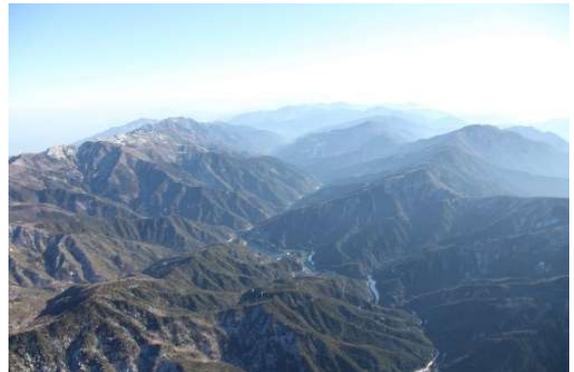
第3章 目指す環境像と施策

1 目指す環境像

本市は、江戸時代の別子銅山の開坑により繁栄した歴史があり、明治維新後の近代化において、別子銅山は我が国の代表的な鉱山のひとつとなりました。急激な近代化とともに鉱山からの煙害に直面しましたが、荒廃した山への植林などの対策を先駆的に行い、環境問題を克服してきました。別子銅山の歴史は、都市形成の歴史そのものといえます。

現在も、本市は別子銅山から派生した産業により、中四国屈指の臨海工業地域を有しながら、豊かな自然環境にも恵まれています。

先人から受け継いだ素晴らしい環境を守り、市民一人ひとりが心豊かに暮らすには、市民、事業者、行政が一体となり、主体的に協働し市民生活や産業活動と環境が共生するまちづくりに取り組んでいくこととし、「目指す環境像」を次のとおり設定します。



**歴史を未来につなぐ あかがねのまち
ゼロカーボンシティにいほま**



◆歴史を未来につなぐ あかがねのまち

市内に残る数多くの産業遺産や、青々とした山は、100年以上前の環境対策を物語っています。先人から受け継がれた歴史や豊かな自然から学び、次世代へつないでいくことが大切です。

◆ゼロカーボンシティにいほま

2050年のゼロカーボンシティの実現を目指して、全市一体となって取組を推進していきます。

2 未来につなぐ持続可能なまちを目指して

(1) SDGs

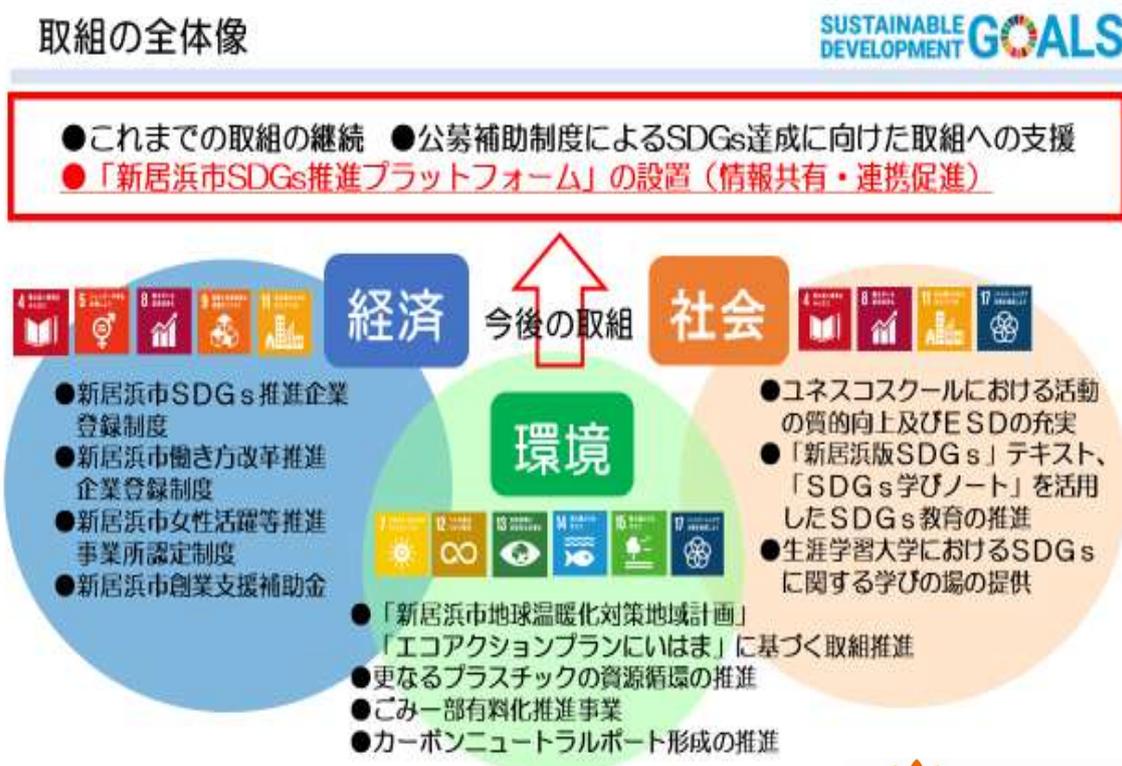
SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標として、2015年、国連において採択され、国際社会が2030年までの取り組むべき課題を集約した17のゴールおよびゴールごとに設定された169のターゲットが盛り込まれています。

国においてもSDGs達成に向けて取組を推進しており、地方公共団体においても積極的な取組みが求められています。

本市では、令和4（2022）年5月に、国から「SDGs未来都市」としての選定を受けました。

これは、国がSDGsの理念・活動を全国に広めるため、SDGsの達成に向け、先進的で、優れた取組を行う自治体を評価し選定する制度であり、本市の歴史や近年のSDGsに関する市の取組が総合的に評価された結果です。

SDGs未来都市として、持続可能なまちづくりに向けて「経済」「社会」「環境」の三側面の取組を推進しますが、環境分野の取組では、「新居浜市地球温暖化対策地域計画」や「エコアクションプランにいはま」に基づき、脱炭素社会の実現に向け、プラスチックの資源循環の推進や、ごみ減量に向け取り組むほか、後掲の「カーボンニュートラルポート」の実現にも取り組むこととしています。



(2) 地域循環共生圏

地域循環共生圏は、平成 27（2015）年、国の「第五次環境基本計画」で位置づけられており、地域資源を活用して環境、経済、社会を良くしていく事業を生み出し続けることで、地域課題を解決し続け、自立した地域をつくとともに、地域の個性を生かして地域同士が支えあうネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考え方です。

現在、国において見直しを進めている「第六次環境基本計画」（令和 6（2024）年度施行予定）では、地域循環共生圏をさらに深化させていく方針が示されています。

また、地球温暖化対策においては、令和 32（2050）年までに 脱炭素社会を目指すことが示され、急速に機運が高まる中で、「地球温暖化対策推進法」に基づく「地球温暖化対策計画」が、2021（令和 3）年に改定され、新たな削減目標の実現に向けて進んでいます。

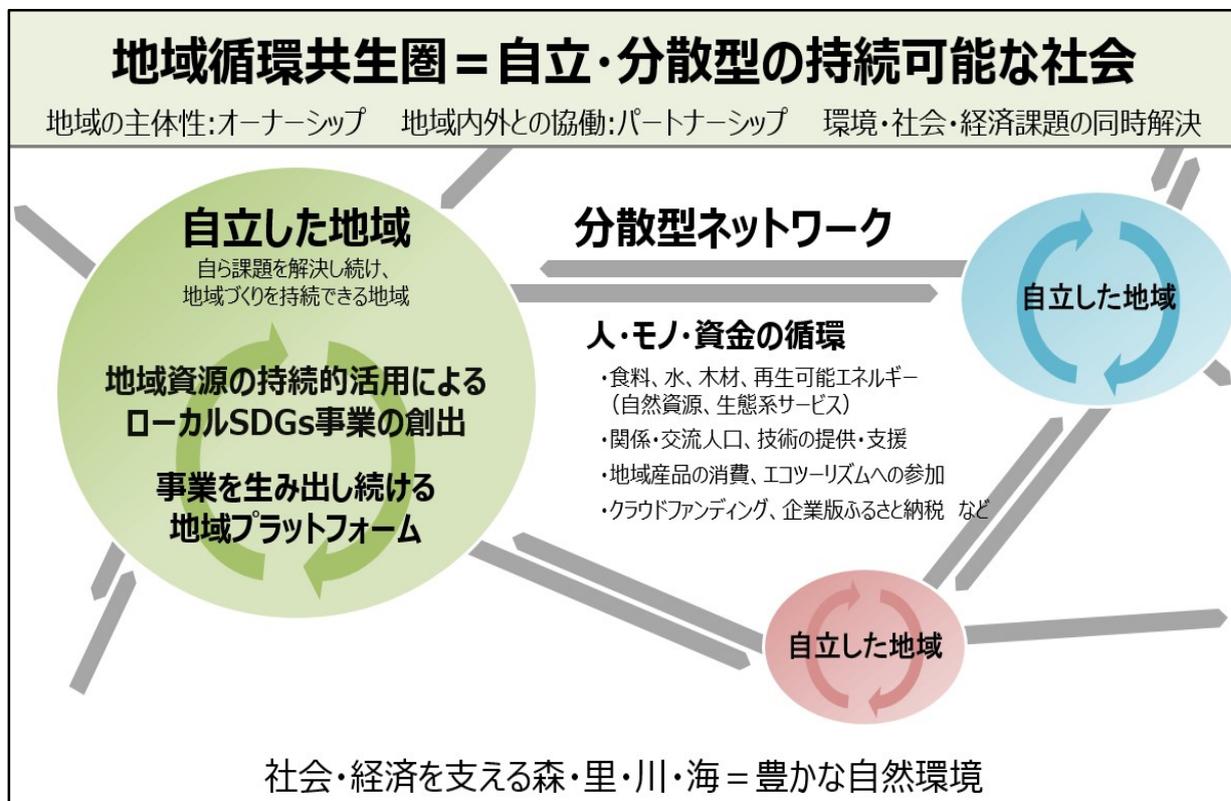
本市においても、持続可能なまちづくりに向けて「地域循環共生圏」の創造を目指していく方向性のもと、本計画において各取組を進め、2050年ゼロカーボンシティを目指します。

本市の動向

令和 3（2021）年 6月 新居浜市ゼロカーボンシティ宣言

令和 4（2022）年 5月 SDGs 未来都市選定

令和 4（2022）年 6月 新居浜市気候非常事態宣言



出典：環境省ホームページ

3 対象範囲と体系

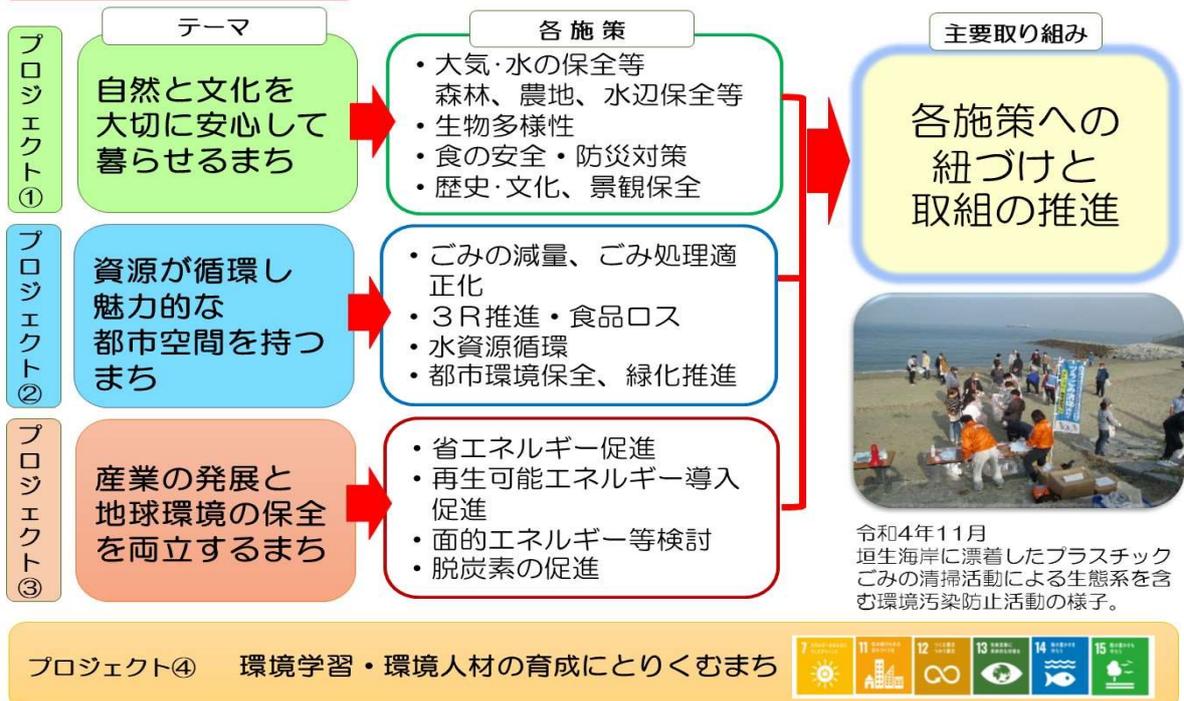
○対象範囲

本市では、新居浜市環境基本条例第7条により、施策を策定及び実施する際には、次の6つの基本方針に基づいて、総合的かつ計画的に推進することとしています。

- (1) 人の健康の保護及び生活環境を保全するため、空気、水、土等を良好な状態に保持すること。
- (2) 人と自然が共生する環境を実現するため、森林、農地、水辺等における自然環境を保全すること。
- (3) 潤い、安らぎのある都市環境を実現するため、緑や水辺と親しむことができる都市空間の形成及び歴史的文化遺産の保存を推進すること。
- (4) 環境への負荷の少ない循環型社会を構築するため、資源及びエネルギーを適正かつ有効に利用すること。
- (5) 清潔で美しいまちを実現するため、廃棄物の発生の抑制、再使用等による減量化を図り、ごみの散乱、不法投棄等を防止すること。
- (6) 地球環境を保全するため、地球温暖化の防止、オゾン層保護等を推進すること。

本計画では、これら6つの項目に「災害対策」を追加した7項目を分かりやすく親しみやすい計画にするために、次の表のとおり4つのグループに分け、グループごとの各施策、主要な取組へ紐づける体系としています。

○計画の体系



4 持続可能な新居浜市を目指したまちづくり施策

プロジェクト1 自然と文化を大切に安心して暮らせるまち

市民が健康で安心して日常生活を送るために、大気、水質、土壌等の状態を良好に保ち、生活環境を良好な状態に保全することは必要不可欠です。

また、豊かな水資源、緑あふれる森林やこれらを取り巻く動植物の生態系をまもること、近代化産業遺産に代表される魅力ある地域資源、「太鼓祭り」などの地域に根付く伝統と歴史を次世代に引き継いでいくことで、環境にやさしく、自然や文化と共生した暮らしの実現を目指します。



〇市が取り組む項目

施策	主要取組項目
① 大気、水保全、有害物質監視、公害対策	大気の常時監視、騒音等公害対策、公共下水道整備等、生活排水対策、工場排水監視
② 森林保全	森林の保全、計画的な森林整備、木質バイオマス利活用支援、新たな森林管理システムの推進
③ 農地保全	優良農地保全、耕作放棄地対策
④ 水辺保全	親水空間の保全等、水辺環境の整備と活用（河川敷公園、マリパーク等）、河川保全
⑤ 生物多様性保全	貴重な動植物等（国指定天然記念物 等）の保護、保全対策の推進、野生鳥獣・外来生物対策
⑥ 食の安全	食の安全、地産地消の推進、食育の推進
⑦ 防災・減災対策・強靱なまちづくり	防災、減災効果を高める環境基盤の整備、公園等の防災機能の確保、災害時の二次被害対策の推進
⑧ 歴史・文化保全、景観保全	景観の保全、文化財や近代化産業遺産の保全・活用

〇市民・事業者の取組が期待される項目

市民の取組内容
① 野焼きやごみの焼却はしません。
② 不必要なアイドリングや急加速・急発進をしない、エコドライブを心がけます。
③ 供用が開始されたときは、遅滞なく公共下水道へ接続します。
④ 水路の清掃活動へ参加するなど、水質保全に協力します。
⑤ 地元産食材を積極的に消費するよう努めます。
⑥ 食育により、心身の健康と豊かな人間性、自然への感謝の気持ちを育みます。

⑦	公園や森林の自生植物や樹木を大切にします。
⑧	海域、海岸、河川、水辺の利用時には、マナーを守ります。
⑨	動物や植物などの生息・生育環境である森林、里山、水辺などの保全に協力します。
⑩	「まち美化条例」を遵守した公園・緑地の利用を心がけます。
⑪	文化財や産業遺産、民俗文化についての理解を深め、保全や活用に協力します。
事業者の取組内容	
①	工場・事業場では、ばい煙の適正処理を徹底します。
②	法令に定められた基準を遵守し、騒音・振動・悪臭対策を徹底します。
③	法規制の対象とならない場合でも、自主的に排水処理対策に努めます。
④	汚染物質が発生した場合には、適正に処理します。
⑤	環境リスクの管理に努め、環境汚染の防止や健康被害の未然防止に取り組みます。
⑥	地産地消の推進に向けた事業活動の推進、食の安全性や危険性に関し適正に取り組みます。
⑦	自然環境の復元に努め、間伐材の有効利用に取り組みます。
⑧	海域、海岸、河川、水辺の保全・再生活動に協力します。
⑨	開発行為時には、動物や植物などの生息・生育環境に十分配慮します。
⑩	良好な景観を形成するまちづくりに協力します。

○成果指標

	成果指標（担当課）	指標の説明	R4基準値	R12目標値
①	大気環境基準（環境衛生課）	大気環境基準達成状況	達成 ※光化学オキシダント未達成	達成
②	生活排水処理率（廃棄物対策課、下水道課） （新規）	住基人口に対する生活雑排水処理人口の割合 ※公共下水道整備+合併処理浄化槽整備	83.9%	92.5%
③	海域の環境基準達成率 COD（環境衛生課）	5つの水域での環境基準達成率	80%	100%
④	地下水の環境基準達成状況（環境衛生課）	環境基準達成状況	達成	達成
⑤	ダイオキシン類の環境基準達成状況（大気・水質・土壌）（環境衛生課）	大気・水質・土壌の環境基準達成状況	達成	達成
⑥	耕作放棄地面積（農業委員会事務局）	耕作放棄地適正化（耕作放棄地の面積）	85ha	70.9ha
⑦	学校給食における野菜、米の新居浜産使用率（学校給食課）	野菜（重量ベース）	野菜17%	野菜20%
		米（重量ベース）	米32%	米35%

① 大気・水の保全、有害物質監視、公害対策

◎大気の常時監視及び緊急連絡体制の充実

大気汚染自動測定機の更新や保守を徹底し、継続的なデータ収集に努めます。

光化学スモッグ注意報等の発令時や微小粒子状物質（PM2.5）に係る注意喚起があった場合は、健康被害の低減を図るため、緊急連絡体制により、市民に迅速に周知します。



◎公害に関する規制や対策

「騒音規制法」及び愛媛県公害防止条例に基づく騒音、振動防止の取組や、「悪臭防止法」に基づく工場・事業所等の監視・指導、畜産・水産業の悪臭に関する啓発・指導に取り組みます。また、日常生活における悪臭や違法な野焼きについて、意識啓発や防止に努めます。

◎ダイオキシン類対策の周知・啓発

「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づき、愛媛県との連携のもと、ダイオキシン類対策の周知・啓発を実施します。

◎公共下水道の整備推進と合併処理浄化槽の設置促進

公共下水道の事業計画区域においては、公共下水道の普及率向上に努めるとともに区域外においては補助金を交付することで、合併処理浄化槽の設置を促進します。

◎生活排水による水質汚濁防止、工場・事業場排水の監視・指導

各家庭における生活排水が河川等の水質に影響を及ぼすことから、水質汚濁防止につながるよう、意識啓発を行います。また、特定施設を設置する工場・事業場に関して、愛媛県の協力を得て、監視・指導や水質改善の啓発を行います。

② 森林保全

◎森林の保全と持続可能な森づくりの推進

森林の多面的機能が十分に発揮できるよう、長期的視点に基づいた計画的な森林保全や、森林環境譲与税の活用による新たな森林管理システムの推進に取り組み、民有林の間伐等の管理を進めていきます。魅力的な林業の促進等を進めるとともに、野生動植物と共生できる持続可能な森づくりに取り組みます。

◎間伐材等の有効利用の促進

森林資源の適正な保全に向け、間伐材の活用方策として木質バイオマス利活用に関する支援や、新たな活用方策等を検討し利用を促進します。



③ 農地保全

◎優良農地の保全と耕作放棄地対策

農業振興地域にある農用地については、無秩序な転用を抑制するとともに、後継者や新規就農者の育成を支援します。また、農業振興による農地の維持・保全に努めるとともに、耕作放棄地については、森林化・原野化を防止するとともに、再生や有効活用に取り組みます。

④ 水辺保全

◎親水空間の保全と整備

港湾が市民にとって、より親しみの持てる空間となるよう、親水機能の確保に配慮するとともに、誰もが楽しめる水辺空間の保全と整備に努めます。

◎河川環境の整備

関係機関と連携しながら、その川らしい河川環境が維持、形成されるように環境整備に努めるとともに、水辺の生態系に重要な役割を果たす水辺空間を保全します。

⑤ 生物多様性保全

◎貴重な動植物等の調査及び保護

国指定の笹ヶ峰、愛媛県指定の赤石山系の自然環境保全地域などを中心に、貴重な動植物等の生息環境の保護に取り組みます。

◎生物多様性に配慮した保全対策の推進

溪谷や樹林など多様な生物の生息・生育域の一体的な保全に努めるとともに、地域特有の自然環境を体験できる機会を拡充し、生物多様性の重要性を身近に感じることのできる環境の保全に努めます。



◎野生鳥獣・外来生物対策

「新居浜市鳥獣被害防止計画」に基づき、イノシシやその他の動物などによる農作物被害や森林被害の防止に努めます。また、在来種や生態系への影響防止のため、ヒアリやセアカゴケグモなど、危険な外来生物の防除に努めます。

⑥ 食の安全

◎食の安全性と危険性に関する周知・啓発

市民の健康に直接かかわる重要な事項として、家庭における食生活の安全について、関係機関から積極的に情報収集し、迅速な情報提供を行います。

◎地産地消の推進

学校給食等を中心に、野菜・米等の安心な地元産食材を積極的に活用し、農業の活性化や流通におけるエネルギー消費の抑制に取り組みます。

◎食育の推進

「第2次新居浜市食育推進計画」に基づき、食育の推進とともに、食をとりまく環境整備の一環として、健全な食生活や食品ロス削減等の啓発にも取り組みます。



⑦ 防災・減災対策・強靱なまち

◎防災、減災効果を高める環境基盤の整備

避難所における太陽光発電、蓄電池、移動式急速充電設備やEV車等の多様な非常用電源の導入促進、非常用エネルギー源の分散導入に向けた取組を推進するとともに、民間事業者と連携して災害時のエネルギー確保の融通が図れるよう協定を推進することで協力体制の構築に取り組みます。

◎公園・緑地・森林の防災機能の確保

災害時の緊急避難場所となる公園や緑地を適正に管理するとともに、森林保全の施策と連携して、土砂災害や洪水を防ぎ、水源涵養機能などの防災機能維持のための整備を行います。

◎災害時の二次被害対策の推進

災害時に二次被害が生じないように、有害物質の漏えいによる環境被害を及ぼす可能性のある危険物について、現状把握、監視、点検を行い、安全対策等について指導します。

⑧ 歴史・文化保全と景観保全

◎景観の保全

豊かな自然と歴史的資源を有する新居浜らしい景観を守り、市民が愛着と誇りをもつことができる魅力的な景観の形成づくりに取り組むとともに、「新居浜市景観計画」にもとづく区域内の景観の保全に努めます。

◎文化財や近代化産業遺産の保全・活用

別子銅山の開坑とともに発展し、煙害の克服や、植林による森林の再生などに取り組んできた本市の歴史は都市形成の歴史そのものと言え、現在も別子山から臨海部に至るまで市内各所に産業遺産が遺されています。それらの産業遺産の保存活用や文化財の保護を図り、本市特有の魅力ある景観として次世代へ継承していきます。



プロジェクト2 資源が循環し魅力的な都市空間を持つまち

未来に向け持続可能な社会に移行するためには、限りある水資源や森林資源の保護や、廃棄物に関して、市民一人ひとりがこれまでのライフスタイルを見直していく必要があります。日常生活や事業活動で排出される廃棄物をめぐる諸問題を解決するには、まず発生を抑制し、再使用、再生利用を促進するとともに、利用できない廃棄物を適正に処分することが必要です。市民が快適な暮らしを実感するためには、利便性の高いインフラを整備するとともに、ごみ減量、省資源、リサイクルの取組を進め、ごみを出さない、捨てさせない資源循環型のまちの実現をめざします。



〇市が取り組む項目

	各施策	主要取組項目
①	ごみ減量、ごみ処理適正化	一般廃棄物処理基本計画に基づく処理、環境美化推進体制の充実、不法投棄対策 等
②	3Rの推進	3Rの推進、プラスチック資源循環、食品ロス削減の推進
③	水資源循環	総合的・計画的な水道事業の推進、水資源の保全、水資源の有効活用
④	都市環境保全、緑化推進、緑地保全	都市公園・緑地整備（緑化重点地区整備：駅前）、自転車走行空間整備、公共交通機関ユニバーサルデザイン推進

〇市民・事業者の取組が期待される項目

	市民の取組項目
①	家庭・職場・学校などで、ごみを発生させないライフスタイルに転換します。
②	買い物はマイバッグを持参し、過剰包装などは断るようにします。
③	定期回収のごみ出しルールを守り分別収集とリサイクル（3R）に協力します。
④	廃棄物の不法投棄はしません。環境美化活動や一斉清掃に協力し、ポイ捨てはしません。
⑤	水資源を大切に使う意識を持ち、日常生活で節水に努めます。
⑥	できるだけ徒歩や自転車を利用するように努めます。
	事業者の取組内容
①	廃棄物の処理過程を把握し、法令に基づき自らの責任で廃棄物を適正処理します。
②	廃棄物の減量化、資源化に努めます。
③	再使用、リサイクルに配慮した製品の開発に努めます。
④	工場・事業場では、排水の再利用など、循環型プラントの導入について検討します。
⑤	市民が快適に通りを通行できるよう、歩行者や自転車の通行に配慮します。
⑥	事業所敷地内の緑化や緑のカーテンの導入、オープンスペースの緑化推進に配慮します。

○成果指標

成果指標（担当課）		指標の説明	R4基準値	R12目標値
①	公共施設愛護事業登録件数（地域コミュニティ課）	自発的に清掃、美化活動に取り組む団体・個人の登録件数	109件	120件
②	ごみ排出量（廃棄物対策課）	市民一人が一日に排出するごみの量	1,020g	891g
③	リサイクル率（廃棄物対策課）	資源ごみのリサイクル率	12%	15%
④	自転車利用走行空間整備率（道路課）	自転車走行空間整備率	29%	35%

① ごみ減量、ごみ処理適正化

◎廃棄物埋め立て処理の適正管理

最終処分場において、「廃棄物処理法」に基づいて、周辺環境に配慮した適正な廃棄物処理を進めるとともに、残余容量のモニタリングを行います。

◎廃棄物処理施設の予防保全的な維持管理

「廃棄物処理施設長寿命化計画作成の手引き（ごみ焼却施設編）」の考え方に基づき、性能水準が一定以下となる前に保全処置を行う予防保全型の維持管理を行います。

◎環境美化推進体制の充実

環境美化の推進組織となる自治会を基盤とした環境美化推進体制を充実させ、環境美化活動を促進するとともに環境美化推進員と連携し、道路の清掃活動やポイ捨て防止に向けたまち美化啓発看板を配布するなど啓発活動を行います。

◎不法投棄パトロールの強化

関係機関・団体等と連携を強化し、パトロール・不法投棄の早期発見・早期対処による不法投棄防止に取り組みます。

◎産業廃棄物の監視・指導の強化

排出事業者に対して、愛媛県と協力連携して適正な処理を行うよう指導します。

◎廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化等の推進

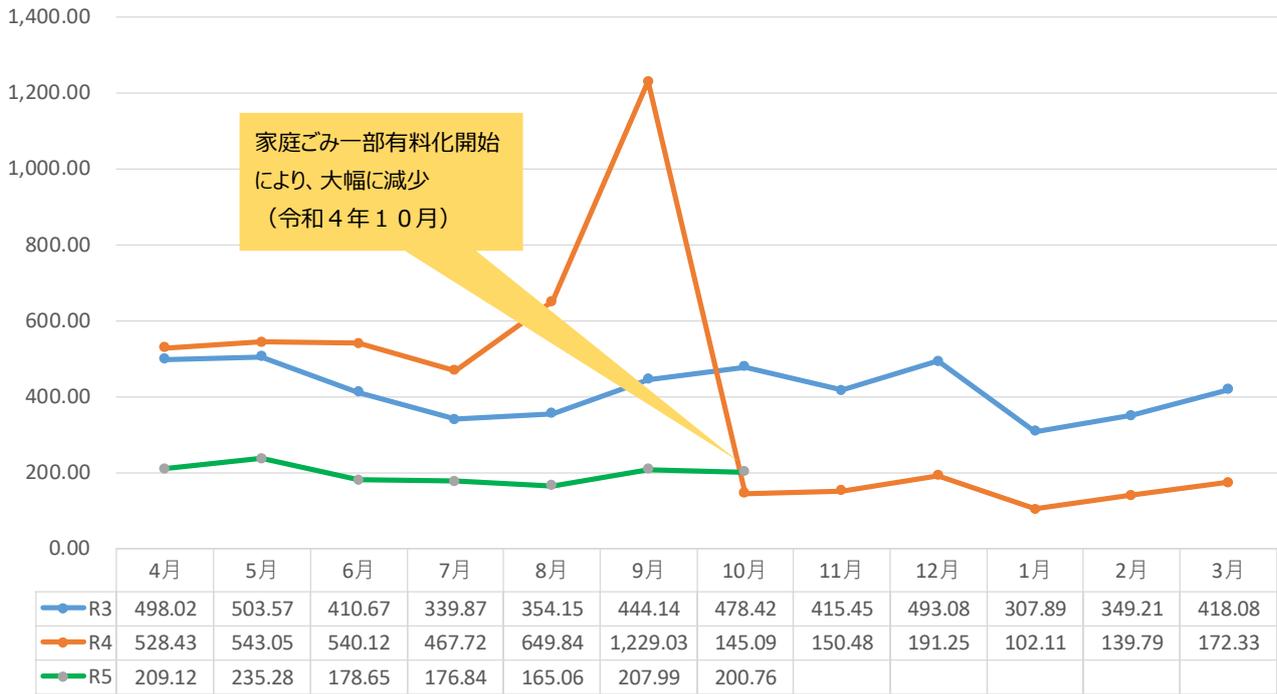
時代に呼応した廃棄物処理施設の運営と共同化・広域化・集約化の視点を加えた施設の再編を目指します。また、民間活用の調査検討に取り組みます。

◎ごみの発生抑制

家庭ごみの処理の一部（直接搬入ごみ、大型ごみ戸別収集）の有料化実施により、ごみの発生抑制の取組を促進するとともに、資源循環の推進のため、ごみの減量や3Rに関する市民意識の向上に取り組みます。



一般家庭持込ごみ重量（清掃センター）の推移 単位：トン



② 3Rの推進

◎リデュース（ごみの減量化・発生抑制）の促進

マイバッグ持参の促進や生ごみの堆肥化等について支援し、ごみの発生抑制に取り組めます。

◎リユース（ごみの再利用）の促進

衣類等を中心とした不用品のリユースやフリーマーケットやリユースショップの利用などを啓発し、ごみの再利用を促進します。また、民間との連携、協定によるリユース活動を促進します。

◎リサイクル（ごみの分別回収・再資源化）の促進

資源ごみや使用済み天ぷら油などについて積極的に回収を進め、再び資源としてリサイクルできる資源回収システムを整備します。

◎いはま3Rネットワークの促進

3Rに取り組む市民・事業者・市のつながりの見える化として、3Rネットワークへの登録を推進し、登録情報の広報によって、誰もがわかりやすいごみの減量や再資源化の取組を推進します。



◎プラスチック資源循環の推進

プラスチックの3Rの推進において、プラスチックごみ問題についての情報発信に取り組みます。また、マイクロプラスチックの発生原因となる海洋ゴミ対策の取組として、ポイ捨てや不法投棄の撲滅に向けて普及啓発を積極的に行います。さらに、各地域での環境美化、清掃活動と連携して、プラスチックごみの海への流出を抑制します。



◎サーキュラーアクション「MICANプロジェクト」の取組

資源の有効活用を図るため、令和5年度に民間との連携、協力により市内事業所のリサイクル実証設備を利用して、アクリル飛沫防止板地域内資源循環プロジェクト（MICANプロジェクト）の取組を実施しました。

市民、事業者、行政等が一体となって循環型社会の実現を目指す取組「サーキュラーアクション」を推進します。



◎食品ロス削減の推進

食品ロス削減の必要性について、市民に広報するとともに、市民、事業者と連携した取組として、食品ロス発生原因の啓発、各家庭での水切りや生ごみの堆肥化の推進のため、生ごみ処理容器等の設置への支援やダンボールコンポストの普及啓発に取り組みます。また、「おいしい食べきり運動推進店」登録制度の取組を推進します。



コラム⑥ 3Rネットワーク登録

市民のみなさんが、「何を・どこに持って行けばいいか」を見える化することにより、簡便・効率的にごみの減量化・再資源化を図ることを目的としています。登録いただいた事業者の情報は、市ホームページやSNSにおいて、積極的に広報しています。

にはま3Rネットワーク

にはま3Rネットワークとは…?

ペットボトルや牛乳パックなどの店頭回収を実施いただいているスーパーマーケット・ホームセンターや、資源回収（古紙、アルミ缶など）を実施いただいている資源回収事業者、リユースショップなどと連携し、新居浜市の3R（リデュース、リユース、リサイクル）推進に取り組んでいます。
皆さんにネットワークを活用していただくことで、効率的にごみの減量化・再資源化が進んでいます！



③ 水資源循環

◎総合的・計画的な水道事業の推進

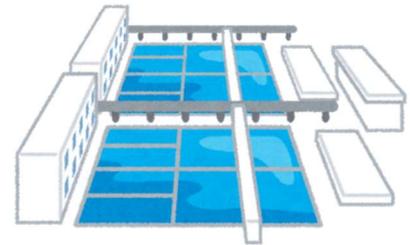
令和3年3月策定の「新居浜市新水道ビジョン」、令和4年4月改訂の「新居浜市水安全計画」に基づき、水道施設の衛生管理など、安全な水道水の安定供給とともに、水道施設の耐震化や、応急給水設備の拡充など、災害時における安定給水の確保に取り組みます。

◎水資源の保全

貴重な水資源である地下水の水質の保全を図り、水資源を大切に使う意識啓発を行います。予備の水源となる井戸、湧水施設について、土地改良区と協力しながら、施設の適正な管理に取り組みほか、ため池の機能の維持補修と保全に取り組みます。

◎水資源の有効活用、地下水涵養機能を高める都市整備の推進

新居浜市の上水道の水源は全て地下水であることから、雨水資源の循環を目的とした公共雨水浸透施設の普及促進や、民間活力を利用した私設雨水浸透施設の整備促進の方策について検討するとともに、下水処理水の有効活用による再生水の利用など、新たな活用方策の構築に努めます。



④ 都市環境保全、緑化推進、緑地保全

◎都市公園等・緑地の整備推進

都市公園・緑地の適正な管理を行い、市街地の緑化を推進するとともに、「緑化重点地区」である新居浜駅周辺地区において積極的に緑化を推進します。また、大規模スポーツ大会や各種イベントが開催できる総合運動公園について、「新居浜市総合運動公園基本計画」に基づき整備に向けた取り組みを推進します。



◎人にやさしい自転車・歩行者空間の整備

景観に配慮した街路樹の適正な管理を行うとともに、都市計画決定している幹線道路を中心に、街路樹や植栽による緑化、広幅員の歩道の設置を進め、人にやさしい自転車、歩行者空間の整備の推進とともに、自転車走行空間の整備や普及、拡大に向け各種施策に取り組みます。



◎人や環境にやさしい公共交通機関のユニバーサルデザインの推進

公共交通機関に関して路線バスのバリアフリー対応車の導入を促進します。

本市は、中四国屈指の臨海工業地域を有しながら、市域の7割が山林であり、平野部では面積のほぼ4分の1を占める豊かな田園風景が身近に広がっています。本市の地域特性を生かした環境づくりには、恵まれた自然環境を守りながら地域産業の活性化に向けた取組を推進していくことが重要であり、市民、事業者が共に環境意識を高め、環境に配慮した主体的な行動を促す仕組づくりが必要です。

2020年度における本市の温室効果ガスの排出構成は、産業部門の割合が最も多く、次いで民生部門、運輸部門、廃棄物部門となっており、他の地域と比べると産業部門の割合が多いのが特徴です。国内においては、東日本大震災以降、エネルギーの安全性に対する国民の意識は大きく変容し、太陽光、太陽熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーや新エネルギーの高度利用技術を利用して、自分たちでエネルギーを生み出し、消費する「自立分散型エネルギーシステム」への関心が高まっています。

本市では、「新居浜市地球温暖化対策地域計画（第2次区域施策編）」及び「エコアクションプランにいほま」（令和5年度改訂）に基づき、地球温暖化対策を推進することで、温室効果ガス排出が少ない低炭素型のライフスタイルやビジネススタイルへの転換、産業の発展と地球環境の保全の両立を目指します。



〇市が取り組む項目

各施策		主要取組項目
①	省エネルギー促進	省エネルギー対策の促進、設備機器の導入促進、脱炭素の取組の促進、環境に配慮した事業活動の普及啓発
②	再生可能エネルギー導入促進	再生可能エネルギーの導入促進、ビジネスの事業化支援、利活用の促進
③	面的エネルギー、次世代エネルギーの検討	面的エネルギーシステムの構築検討、次世代エネルギーの導入検討
④	脱炭素を促進するまちづくり	エネルギー効率を高める都市整備の推進、再生可能エネルギーの率先導入、公用車への電動車等の率先導入、環境負荷の少ない交通手段や公共交通への利用転換の促進、市の事務事業CO2削減、コンパクトシティの推進

○市民・事業者の取組が期待される項目

市民の取組内容	
	省資源・省エネルギー型の製品の導入に努めます。
②	公共交通機関や自転車を積極的に利用します。
③	エコドライブの実践や次世代自動車の導入を検討します。
④	住宅での太陽光発電システム、太陽熱温水器の導入を検討します。
事業者の取組内容	
①	LED照明や高効率給湯器など、省エネルギー設備の導入に努めます。
②	SDGs推進企業やいはまグリーンショップ・オフィスへの登録を検討します。
③	エコドライブの促進や次世代自動車の導入に努めます。
④	事業所での太陽光発電システム、太陽熱温水器の導入に努めます。

○成果指標

成果指標（担当課）	指標の説明	R4準値値	R12目標値
① 公共施設への太陽光発電設備導入率（CN推進室）（新規）	導入可能な公共施設への太陽光発電設備導入率	35%	50%
② 高効率モーター型送水ポンプの台数（施設管理課）	上水設備への高効率モーター型送水ポンプの設置台数	11台	23台
③ 新居浜市SDGs推進企業登録数（産業振興課）（新規）	環境に配慮した取組を行っている企業数	18件	35件
④ 公用車の電動車等導入数（管財課）（新規）	電動車等導入率（公用車全体に対する電動車等の割合）	8%	20%
⑤ 公共交通機関の利用促進路線エリア数・利用者数（地域交通課）	公共交通（バス・デマンドタクシー）①路線エリア維持確保数、②利用者数	①13路線 ②26万人	①14路線 ②42万人
⑥ 市の事務事業における温室効果ガス総排出量削減（CN推進室）	市の事務事業における温室効果ガス総排出量削減 2013（平成25）年度比	18.8%削減	46%削減
⑦ 市域の温室効果ガス総排出量削減（CN推進室）（新規）	市域の温室効果ガス総排出量削減 2013（平成25）年度比	1.25%削減 ※2020（令和2） 年度実績	46%削減
⑧ 新居浜市SDGs推進プラットフォーム会員数（総合政策課）（新規）	SDGsにおける企業・団体等の情報共有・連携の場 （令和5年6月発足）	0件	270件

① 省エネルギー促進

◎中小企業の省エネルギー対策の促進

中小事業所の省エネルギーを促すため、エネルギー利用の最適化に係る、エネルギー使用量や設備導入による効果の「見える化」の啓発を図ります。

◎事業所における省エネルギー設備機器の導入促進

市内事業所及び公共施設、自治会施設等における高効率の給湯、空調、LED照明等の省エネルギー型設備の導入を促進します。

◎事業所での脱炭素の取組の促進

事業所における設備投資等の脱炭素に向けた取組を支援します。

◎環境に配慮した事業活動の普及・啓発

市内で省資源・省エネルギー等の環境に配慮した活動を積極的に行う事業者を市が認定する「にいほまグリーンショップ・オフィス」のPRを図ります。また、「新居浜市SDGs推進企業登録制度」の普及により、持続可能な脱炭素ビジネススタイルの普及啓発や転換促進の取組を支援します。



SDGs推進企業登録制度とはSDGsの達成に向けて、「環境」「社会」「経済」の3つの側面に係る取組を意欲的に実施する企業を登録する制度です。

② 再生可能エネルギー導入促進

◎太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入促進

住宅や事業所における太陽光発電システム等の導入を支援すると同時に公共施設においても導入拡大を図ります。

◎再生可能エネルギービジネスの事業化支援

設備導入補助による低炭素型設備導入の支援を実施するほか、地元支援機関をはじめとする関係機関と連携し、再生可能エネルギーを活用したビジネス事業化の実現に向けた取組に対し支援します。



◎地域特性を活かした再生可能エネルギーの利活用促進

エネルギーの地産地消が実現された社会の形成に向けて、太陽熱、バイオマス、小水力などの地域特性を活かした再生可能エネルギー・未利用エネルギーの導入を検討します。

③ 面的エネルギー、次世代エネルギー検討

◎面的なエネルギーシステムの構築に向けた検討

中心市街地や工業地域など、一定のまとまった地域での面的なエネルギーシステムの構築（スマートコミュニティ）に向け、実現の可能性等について検討します。

◎次世代エネルギーの導入に向けた検討

集積する臨海部産業と連携し、今後の需要増に対応した新エネルギーの受け入れ環境やサプライチェーンの段階的活用について検討します。

④ 脱炭素を促進するまちづくり

◎エネルギー効率を高める都市整備の推進

各地域拠点に日常生活に必要な商業・医療・福祉サービス施設等を身近に集約配置することで、徒歩や自転車による移動圏内で日常生活のニーズが満たされるよう、環境負荷が少なくエネルギー効率の高い都市整備を推進します。



◎再生可能エネルギーの市有施設への率先導入

公共施設の新築・改修に併せた太陽光発電システムの導入や、災害時に備えて公共施設への蓄電池等の非常用電源設備の設置を推進します。

◎公用車への電動車等の率先導入

電動車等を計画的に導入し、現在保有している低公害自動車以外の公用車と入替を推進します。

◎環境負荷の少ない交通手段や公共交通の利用転換の促進

デマンドタクシー（おでかけタクシー）運行の継続とともに、デジタル化により利用者の利便性向上を図ります。また、環境負荷の少ない移動手段の促進として、ノーマイカーデーの参加や自転車利用促進に取り組みます。

◎下水処理場消化ガス有効利用

本市の下水処理場では、平成 20 年度から污泥処理に伴い発生する消化ガスの余剰分を、近接する企業の火力発電所の燃料としてエネルギーの有効利用を図っています。令和 4 年度に消化ガス売却の契約期間を令和 10 年度まで延長しましたが、次期契約については、創エネ等への有効利用方法についても検討します。

◎下水污泥の有効利用

地域循環型社会の構築を視野に入れた再生可能エネルギーの有効活用が可能となるよう、現在県外に搬出している下水污泥の固形燃料化や肥料化の検討を実施します。

下水処理場の下水処理に伴い発生する污泥は生物に由来する有機物資源であるバイオマスとされ、その燃焼等で発生するCO₂は植物等に再び固定しうる循環する資源とされています。その污泥から発生する消化ガスもバイオマスです。



環境問題の多くは、私たちの日常生活や事業活動等に起因していることから、市民、事業者、行政の全てが主体となり、課題解決に向けて取り組んでいくことが求められており、まず、身近な環境に関心を持つことが重要です。

本市では、持続可能な社会を創ることを目指す学習活動としてESD活動の推進と連携し、小・中学校での体験学習を実施しているほか、「にいほま環境市民会議」や「新居浜市地球高温暖化対策地域協議会」において、市民・事業者・行政等がともに環境課題を自らの問題としてとらえた活動を推進しており、今後は、個人や団体の主体的な活動を促すことが必要です。

併せて、先人たちが守り、育ててきた貴重な財産である豊かな自然環境や、別子銅山発祥の地として受け継がれてきた歴史や産業遺産を将来にわたって守り続ける人材を育成し、持続可能なふるさと新居浜を継承していくことが必要です。



〇市が取り組む項目

各施策		主要取組項目
①	環境教育・学習の推進	環境学習の機会と場の充実（生涯学習、自然等体験学習等（市民の森、ゆらぎの森等）、ESDの推進
②	持続可能なまちづくり、環境意識向上の普及啓発	ライフスタイル転換促進の普及啓発、協働推進に向けた情報提供、市民、事業者の自主的取組の支援
③	環境団体等の育成、協働連携促進	市民団体等の育成、協働連携の促進、環境リーダー、ボランティアの人材育成

〇市民・事業者の取組が期待される項目

市民の取組内容	
①	子どもたちの未来のために環境教育・学習の拠点整備に参加、協力します。
②	家庭内で環境について話し合う機会を増やします。
③	森林・河川・海岸美化など、身近な環境問題を意識し、主体的に保全活動を行います。
④	環境リーダー養成講座や環境セミナーへ積極的に参加します。
事業者の取組内容	
①	事業所内で環境教育・学習活動を進めます。
②	環境イベントの開催や環境情報の提供を行います。
③	環境保全活動への従業員の参加を奨励し、人材の派遣や情報提供に協力します。
④	環境リーダー養成講座や環境セミナーへの従業員の参加を奨励します。

○成果指標

成果指標（担当課）		指標の説明	R4基準値	R12目標値
①	環境教育・学習取組学校数（学校教育課）	ESD活動推進事業 環境教育・学習取組学校数（累計）	5校	35校
②	環境学習・地域学習講座数（社会教育課）	公民館の環境学習コース数	10コース	18コース
③	環境活動参加者数（CN推進室）（新規）	環境活動参加者数	1,726人	2,500人
④	地球高温化対策地域協議会会員数（CN推進室）	登録会員数（個人・団体）	292件	300件

① 環境教育・学習の推進

地球の環境をテーマとした市民参加型の環境学習講座や出前講座を地域活動の拠点である公民館等で積極的に開催します。

自然体験のできる環境学習の場として、黒島海浜公園や市民の森の活用のほか、ゆらぎの森での各種イベントやワークショップの開催、産業遺産関連施設を活用した学習機会を通じて、ふるさと新居浜のシビックプライドの醸成とともに環境学習の推進に取り組みます。

◎地球にやさしい学校づくり（ESDの充実）の推進

小・中学校における、総合的な学習の時間等において、地球の温暖化による現状や様々な環境問題について、児童・生徒が環境問題を自分のものとして捉え、問題の解決に向け、自分自身で考え、行動ができる力を身につけることができるよう取り組みます。

② 持続可能なまちづくり、環境意識向上の普及啓発

◎持続可能なライフスタイル等の転換促進

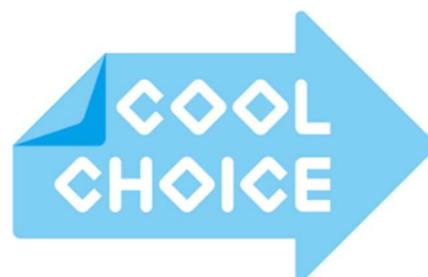
市民や事業者に対し、国民運動「COOL CHOICE（賢い選択）」やデコ活「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の普及啓発により、脱炭素型のライフスタイルや脱炭素型ビジネススタイルへの転換の促進を図ります。

◎協働推進に向けた情報提供の充実

地域の環境に配慮した保全活動や事業活動、環境フォーラム、自然学習事業などの学びの機会や美化活動などの紹介、参加の呼びかけなどについて、広報誌やホームページをはじめSNSを活用して、広く市民、事業者へ情報を発信します。

◎市民、事業者、行政等の各主体の自主的取組の支援

環境学習・体験活動等をコーディネートできる人材の紹介など、ソフト面からの支援内容及びその具体的方策について検討します。



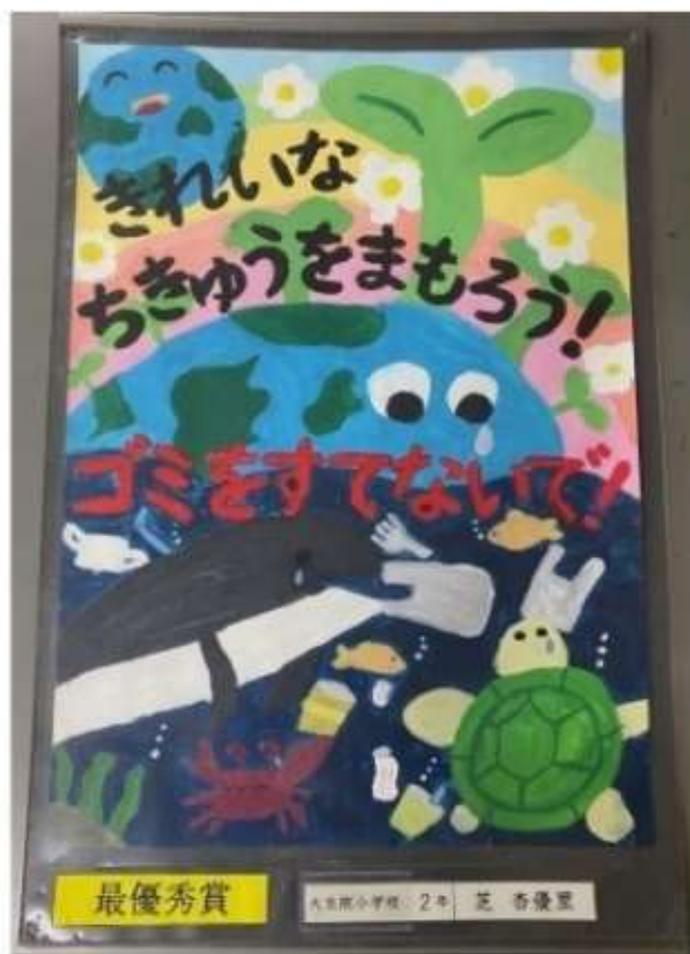
③ 環境団体等の育成、協働連携促進

◎環境保全活動団体の育成・支援

森林保全や河川・海岸美化など自主的な活動を行う団体、集団資源回収やリサイクル活動などを行う団体などと連携を密にするとともに、支援します。

◎環境リーダー、環境ボランティアの人材育成

省エネルギーや環境保全に主体的に取り組む人材の育成を目的とし、環境関連団体への参加を呼びかけます。また、環境活動参加者へのインセンティブ（報奨）として、あかがねポイントを交付し、市民が楽しみながら環境学習に取り組むことができる環境を構築します。



5 ゼロカーボンシティを目指して（新しい施策）

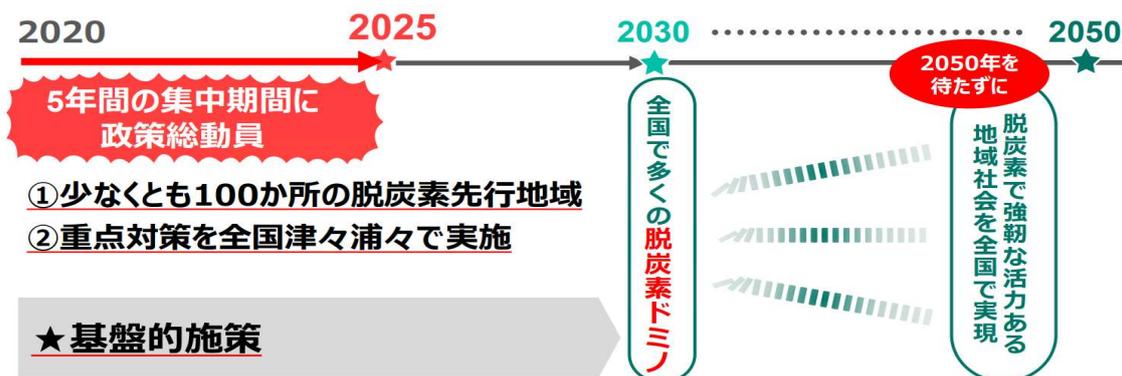
（1）重点対策加速化事業

国は、2021（令和3）年に、国・地方脱炭素実現会議において「地域脱炭素ロードマップ～地方からはじまる、次の時代への移行戦略～」を策定し、2025（令和7）年までに政策を総動員し、人材・技術・情報・資金を積極支援することを示しました。ロードマップの中で、屋根置きなど自家消費型の太陽光発電設備の設置により、屋内・電動車での自家消費を導入することは、系統制約や土地造成の環境負荷等の課題が小さく、余剰が発生すれば域内外で有効利用することも可能であり、蓄エネ設備と組み合わせることで災害時や悪天候時の非常用電源を確保することができるとして、重点対策事業として位置づけました。



【地域脱炭素ロードマップ（抜粋）】

◎本市では、令和5（2023）年度に重点対策加速化事業の「事業採択」を受け、次の「エネルギー地産地消推進事業」に取り組み、令和32（2050）年のゼロカーボンシティを目指すこととしています。



【新居浜市は重点対策加速化事業で、次の事業に取り組みます】

～エネルギー地産地消推進事業～（地域脱炭素移行・再エネ推進交付金）

重点対策
加速化
事業
(R5～R10)

- ・ ①個人向け太陽光発電設備補助
- ・ ②事業者向け太陽光発電設備補助
- ・ ③公共施設高効率照明導入補助
- ・ ④公共施設太陽光発電設備蓄電池、EMS等導入補助



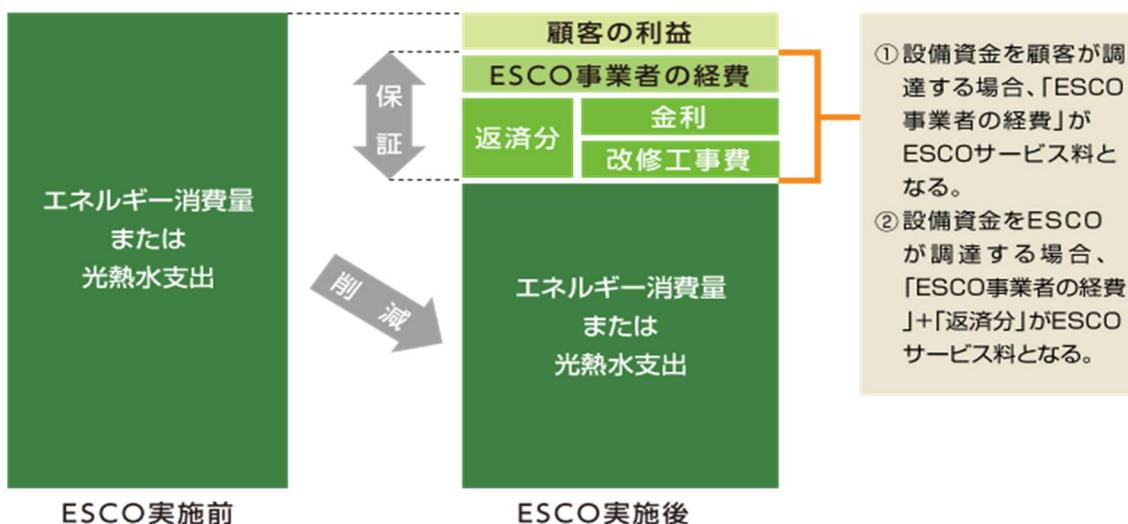
(2) ESCO (エスコ) 事業

ESCO事業とは、省エネルギー改修にかかる全ての経費を光熱水費等の削減分で賄う事業です。ESCO事業者は、省エネルギー診断、設計・施工、運転・維持管理、資金調達などにかかる全てのサービスを提供します。また、省エネルギー効果の保証を含む契約形態（パフォーマンス契約）をとることにより、顧客の利益の最大化を図ることができる特徴を持ちます。

本市においても、このESCO事業を活用し、道路、公園、漁港、港湾施設において、約1,000灯の照明灯をLEDに更新し、排出される温室効果ガスを75.7%削減します。



【ESCO事業の仕組み】



(3) カーボンニュートラルレポート (CNP)

カーボンニュートラルレポート (CNP) とは、港湾を脱炭素の拠点とするため、新居浜港及び隣接する東予港東港地区を利用する民間企業等を含む港湾地域全体を対象とし（以下、「新居浜港等」という。）、新エネルギーの大量・安定・安価な輸入・貯蔵等を可能とする受入環境の整備や、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化、集積する臨海部産業との連携等の具体的な取組について定め、新居浜港等におけるCNPの形成の推進を図るものです。

新居浜港等では、次世代エネルギー向け燃料となりうる水素やアンモニアの取り扱いについて、既存インフラ等を最大限活用しながら、将来の需要増に対応した受入環境や、サプライチェーンの段階的拡張と脱炭素の実現に向け次の8つの項目について民間企業と協力のうえ検討を進める計画です。（「新居浜港・東予港(東港地区)港湾脱炭素化推進計画」令和5年9月策定）

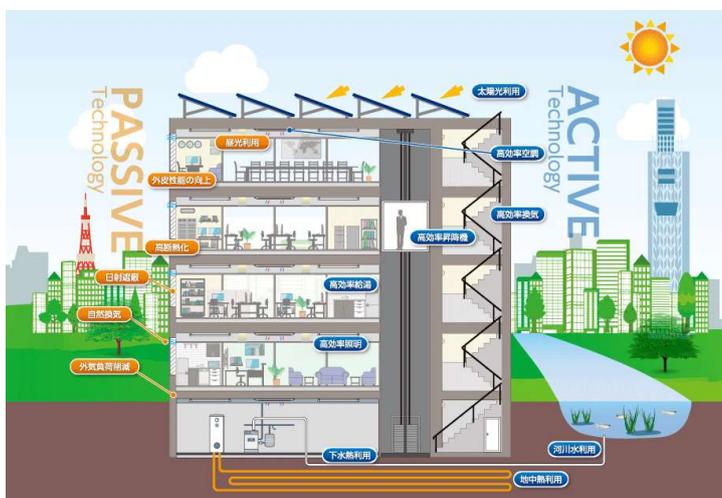
【8項目の取組】



新居浜港等におけるCNP形成に向けた8つの取組イメージ

(4) ZEB (ゼブ)、ZEH (ゼッチ)

ZEBとは、Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略称で、先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、快適な室内環境を実現しながら、大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを旨とした建物のことで、ZEHとは同様の設備や機能、構造を備えた住宅 (House) のことです。



コラム⑨ ZEB、ZEH、パッシブ技術

ZEB、ZEHとは、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロとすることを旨とした建物のことです。建物の中ではエネルギー消費量を完全にゼロにすることはできませんが、省エネと創エネによって、エネルギー消費量を正味 (ネット) でゼロにすることができます。

パッシブ技術とは、省エネ技術の一つで、建物内の環境を適切に維持するために必要なエネルギー量 (エネルギーの需要) を減らすための技術です。

(5) 電動車 (EV (イービー))



国は、経済産業省が中心となり、関係省庁と連携して策定した「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」において、次世代自動車の普及に向け、2035 年までに乗用車新車販売で電動車100%を実現することや、2030 年までに充電インフラ15 万基を設置することなどの目標を掲げており、その実現に向けて補助事業や規制緩和等を行っています。

本市においても、移動に伴う温室効果ガス排出量の削減は重要であり、車両のEV化は排出量削減に向けた有益なツールとなりますが、その車両コストと充電インフラ整備が大きな課題です。

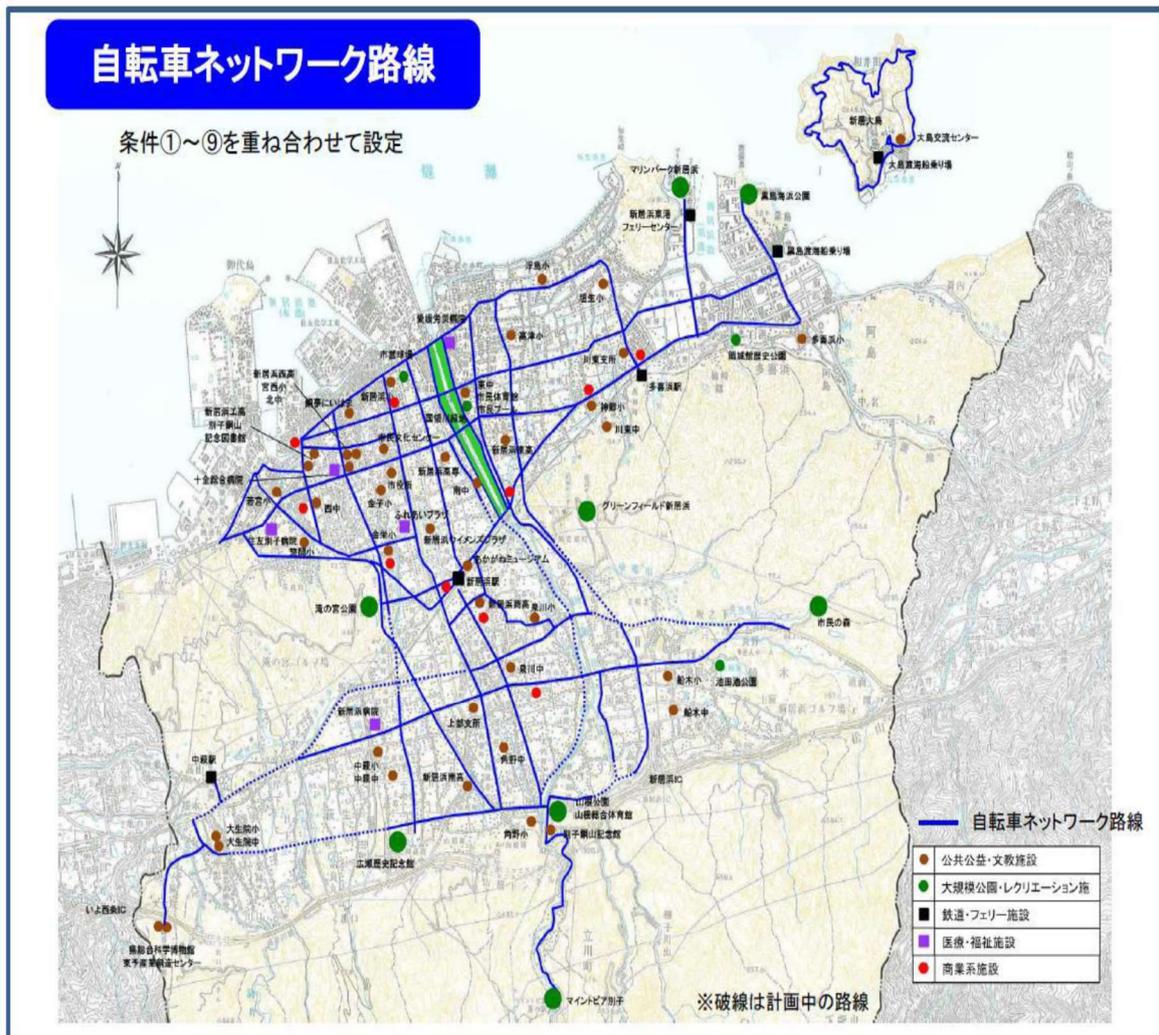
社会全体でEVシフトの動きが活発となっている中、カーボンニュートラルを推進していくためには、車両のEV化と同時に、再生可能エネルギーの利活用という点でのEVの持つ蓄電池としての機能や充電器の整備についても考え、レジリエンスの強化や都市基盤の整備による市民の利便性の向上などと併せて複合的に検証していきます。



(6) 自転車を活用したまちづくり

国では、平成29年に「自転車活用推進法」が施行され、本市においても自転車の利用環境整備に向けて、令和2年3月に「新居浜市自転車活用推進計画」を策定しました。

計画では、自転車ネットワークの形成、ハード整備として自転車専用通行帯や自転車のピクトグラムなどを設置などの自転車走行空間の整備や、自転車利用の普及、拡大等の基本方針を定め、各施策を進めています。



第4章 推進体制と進行管理

1 推進体制

本計画を着実かつ計画的に推進していく上では、市、市民、事業者、団体等、多様な主体が連携し、取り組んでいくことが重要です。下表のように各主体が連携した推進体制で計画の着実な推進を図ります。

(1) 庁内の推進体制

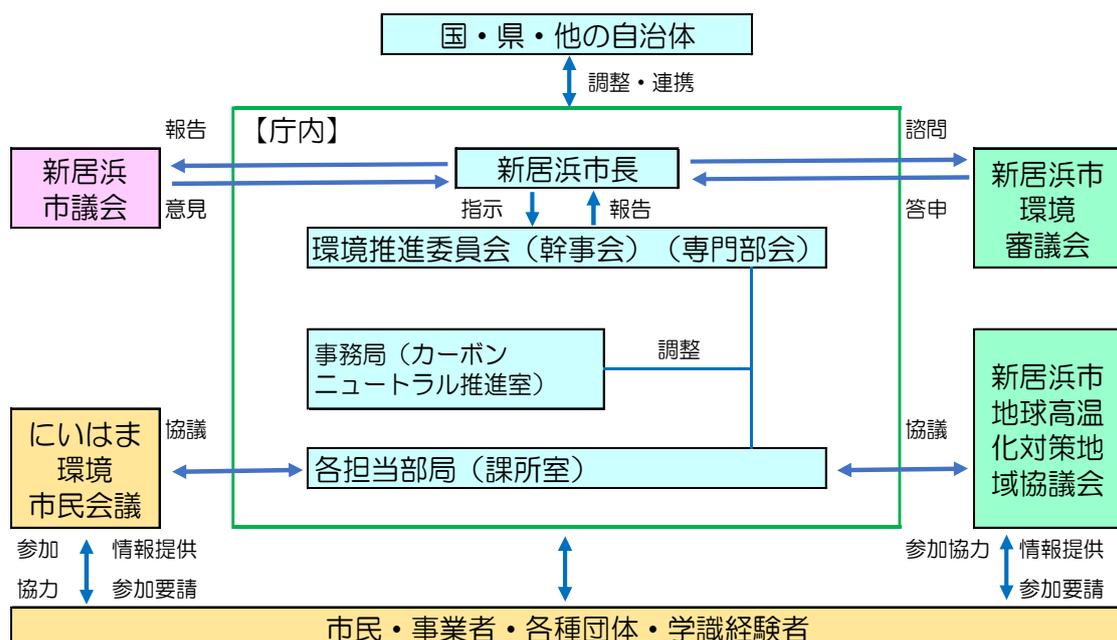
計画の各施策は、担当部署で進めていきますが、調整が必要となった場合は、副市長を委員長とし、部局長で構成される庁内組織である「環境推進委員会」で総合的な調整を行います。また、専門的事項については、環境推進委員会内の組織であり関係課所長で構成される「幹事会」及び「専門部会」で検討を行います。

(2) 市民・事業者・関係団体等との連携

計画の推進には、市民、事業者、関係団体等が積極的かつ主体的に関わっていくことが必要不可欠です。そのほか、本市では地域のコミュニティ活動を中心に、地域が主体的に取り組む環境保全活動を支援するとともに、環境問題への関心が高い市民や団体、事業者等により構成される「にいほま環境市民会議」、「新居浜市地球高温化対策地域協議会」との連携により、主体的な活動を促します。

(3) 国や愛媛県等の関係自治体との連携

「環境基本計画」に関する取組を推進するにあたり、国や愛媛県からの支援・協力、周辺自治体との連携による取組の調整等、連携を図っていきます。

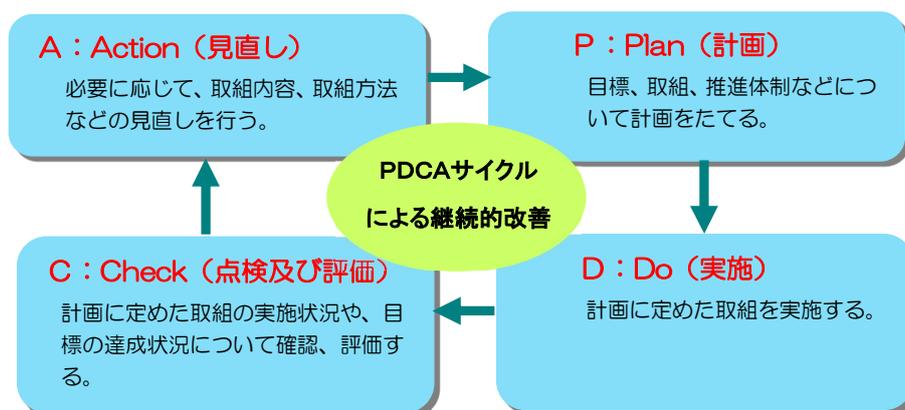


2 進行管理

計画を着実に推進するためには、施策の進行管理を確実にいき、必要に応じて取組内容の見直し等を行います。

(1) 計画の進捗状況の把握

計画の進捗状況を適切に把握し、計画を着実に推進するために、新居浜市独自の環境マネジメントシステム（Ni-EMS（ニームス））によるPDCAサイクルを活用し、計画に定めた取組の実施状況や目標値の達成状況等を把握、取組の重点化や追加等の見直しを行います。



(2) 他の行政計画との調整

本計画は、「第六次新居浜市長期総合計画」を始め、「地球温暖化対策地域計画」等の他の関連計画とも調整を図りながら推進する必要があります。

この度の計画は、2030年の温室効果ガス削減2013年比46%を目指し取り組むものであることから社会や経済の情勢、また環境に関する国内外の動向が変化することに注視しながら、国・県・事業者・関係団体等と連携し目標達成に向け調査してまいります。

(3) 新居浜市独自の環境マネジメントシステム（Ni-EMS（ニームス））の運用

本市では、ISO14001で構築した体制を維持しつつ、平成19年4月より新居浜市独自の環境マネジメントシステム（Ni-EMS：通称 ニームス）を運用しており、市が行う全ての事務事業を対象として、エコアクションプランにいはま4（省エネルギー活動）や環境関連計画などの進行管理を行い、継続的な環境改善を図ることを目的として運用しています。

(4) 進捗状況や目標達成状況の公表

各施策の進捗状況や数値目標の達成状況を取りまとめ、年次報告書を作成し、ホームページ等で、広く市民へ公表します。



第3次にいはま環境プラン

(第3次新居浜市環境基本計画及び環境保全行動計画)

令和6(2024)年3月予定

新居浜市市民環境部環境エネルギー局カーボンニュートラル推進室